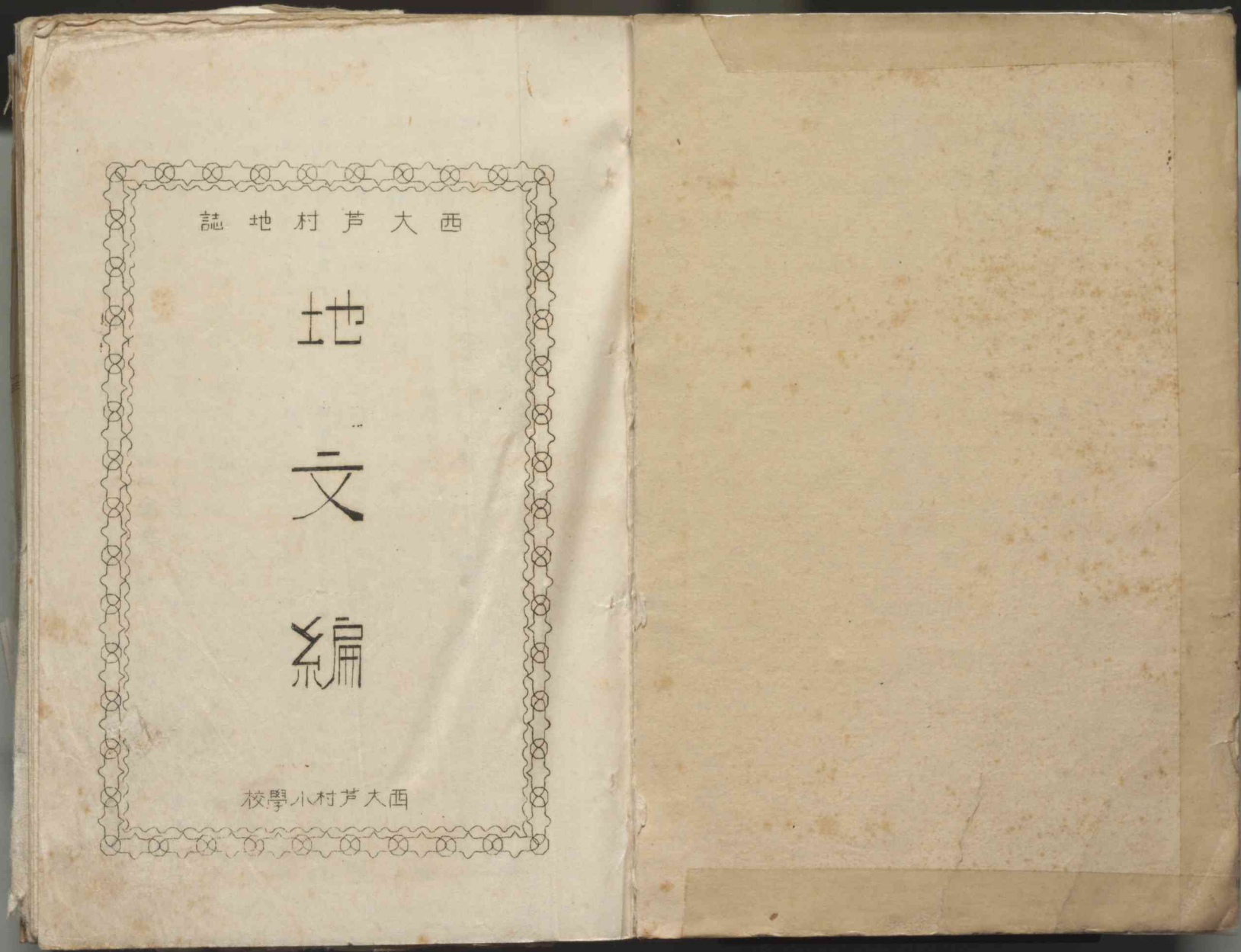
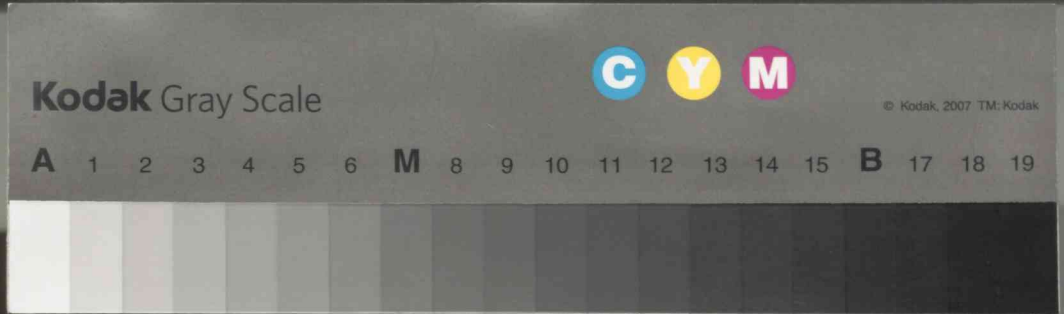


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

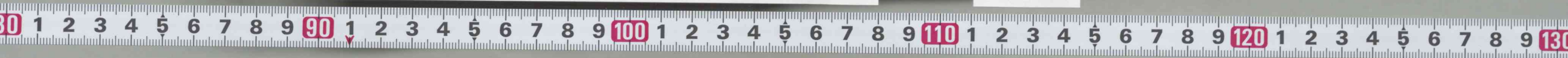
13

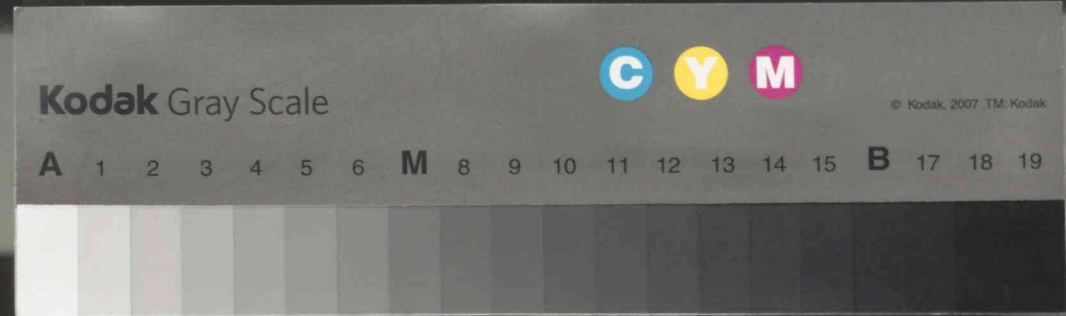




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

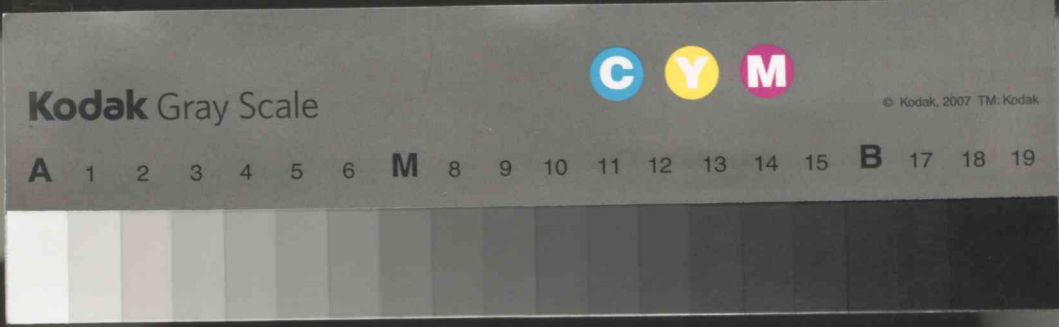




△西大芦村地誌編纂經過

本村ニ於ケル各小學校ハ、即ニシテ、教育ヲ管メ、爲各校別々ニ必要ナル  
 郷土調査ハ、数年ヨリ、絶續シテ、ナレバ、居タガ、此ノ三校ノモノヲ統  
 一シ、體系ノ下ニ、編纂マルコトハ、實現ナレバ、居タ  
 今般本縣デハ、全教育者ヲ、動員シテ、精密ナル地誌編纂ノ議アリ、之ヲ各郡  
 市教育會、依囑マレタ、上都賀郡教育會ニ於テモ、之ニ應スル爲、編纂委員  
 ヲ定メ、昭和七年三月末日ヲ期シ、完成セル各町村地誌ヲ、持テ寄ルニ、決  
 定シタ  
 是ニ於テ、本村各小學校ハ、個々ニ調査シツ、アツタモノヲ、統一スルノ機  
 到達シタルヲ以テ、東校長熊倉八郎主任シ、昭和七年一月十五日、東校ニ於  
 テ、本村小學校職員協議會ヲ、開キ、地誌編纂ニ關スル協議ヲ、遂クルコトヲ  
 ツタ、參會者ハ、本村小學校職員全部ト、學務委員阿部仲次郎、同大曾福本  
 郎、同花本利助ノ諸氏ヲ、テ、ル





先づ主任者ヨリ(本村地誌編纂・開スル件)ヲ所議シ村會協議セラル。模範  
 グレヤ西校長平久保慎四郎(學校職員全員ヲ編纂委員トシ之ヲ調査編纂ノ事  
 ニ當リ各校長ハ其校分組ノ分ニ對シ統一指導ニ任シ又委員長ヲ選  
 ナ今般ノ統一ヲ計ルノ議ヲ提出シ異議ナク之ニ決定 次ニ同氏ハ委員長  
 ノ指名權ヲ附与サレシコトヲ議リ全員異議ナシ同氏全員ニ代リ東校長  
 倉八郎ヲ委員長ニ推薦シタ 茲ニ各委員決定シ協議會ハマ、委員會  
 トナル 委員氏名左ノ如シ

委員長 熊倉八郎

東校委員 石川三郎 西校委員 平久保慎四郎  
 齋藤一子 海老沼雅夫 藤原委員 矢島正一  
 六角良孝 石川封男 熊倉盛男  
 次島イイ 津久井篤池 藤原正久  
 我妻クイ 佐藤 南 大野トミ  
 北條アツ 平久保アカ

高等小學校校長島正一、議ニヨリ各學校ノ担任部門左ノ如ク決定

第一編 地文編全部 西大芦尋常小學校西校  
 第二編 人文編ノ中 西大芦高等小學校  
 第三編 第三三、五、七、八、九、十章 西大芦尋常小學校東校  
 第四編 人文編ノ中 西大芦尋常小學校東校  
 第五編 第四、六、七、八、九、十章 西大芦尋常小學校東校

以上ノ分担ニヨリ各學校ニ於テハ更ニ細目ノ分担ヲ決定シタ

△西校ノ分 地文編

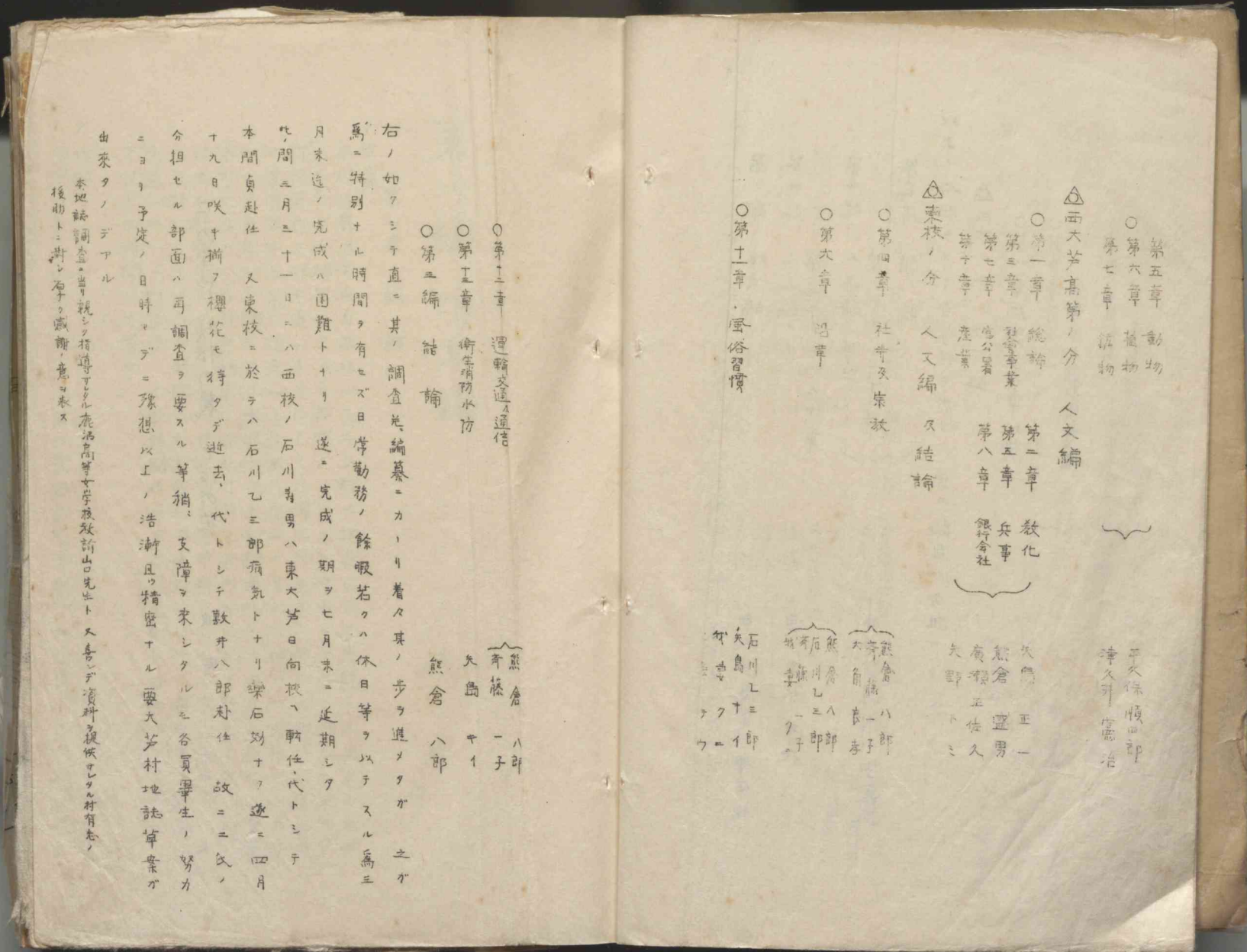
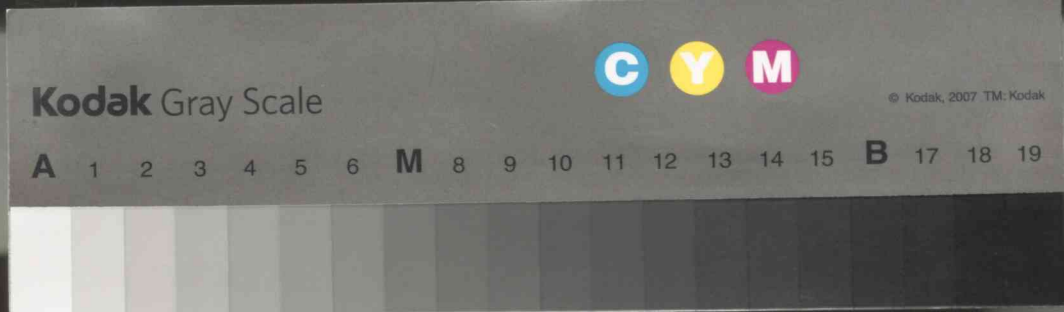
○第一章 総論 第二章 地勢  
 海老沼雅夫  
 平久保慎四郎  
 石川封男  
 北條アツ

○第二章 気候ノ中  
 平久保アカ

○第三章 産業ノ中  
 北條アツ

○第四章 気象  
 佐藤 南





右ノ如クシテ直ニ其ノ調査ヲ編纂ニカリテ著ルモノヲ一歩ラ進メテガ  
 爲ニ特別ナル時間ヲ有セズ日學勤務ノ餘暇若クハ休日等ヲ以テスル高三  
 月未迄ノ完成ハ困難トナリ遂ニ完成ノ期ヲ七月末ニ延期シテ  
 此間三月三十一日ハ西校ノ石川青男ハ東大芦日向校ニ転任代トシテ  
 本間貞赴任又東校ニ於テハ石川乙三郎病氣トナリ樂石効ナク遂ニ四月  
 十九日嗽ヲ擲テ持テ退去代トシテ數井八郎赴任故ニ二校ノ  
 分担セル部面ハ再調査ヲ要スル等猶支障ヲ来シタルニ各員學生ノ努力  
 ニヨリ予定ノ日時ニテ豫想以上ノ浩瀚且ク精密ナル要大芦村地誌草案ガ  
 出來タノデアル

本地誌調査ニ當リ親シク指導ヲ得タル鹿浜高等女学校教授新山先生ト又喜デ資料ヲ提供セラル材有ルノ  
 後助トシテ謝シテ感戴ノ意ヲ表ス

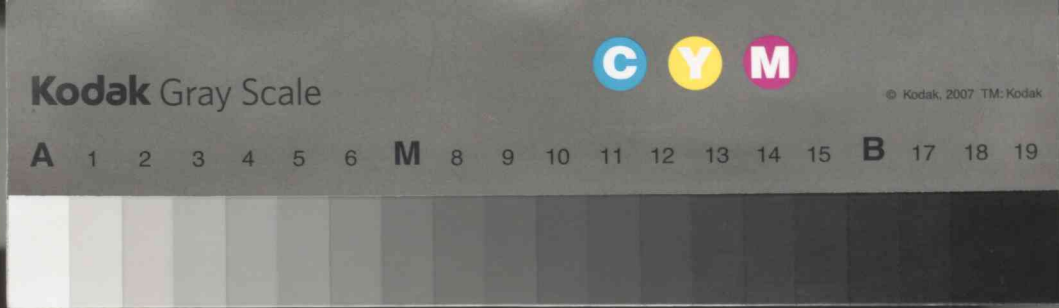
○第五章 動物  
 ○第六章 植物  
 ○第七章 雑物  
 △西大芦高第ノ分 人文編  
 ○第一章 総論  
 ○第二章 教化  
 ○第三章 警察事業  
 ○第四章 兵事  
 ○第五章 農公署  
 ○第六章 銀行會社  
 ○第七章 産業  
 ○第八章 銀行會社  
 △東校ノ分 人文編 及 結論  
 ○第四章 社會及宗教  
 ○第五章 沿革  
 ○第六章 風俗習慣  
 ○第七章 運輸交通及通信  
 ○第八章 衛生消防水防  
 ○第九章 結論

熊倉 八郎  
 齊藤 一子  
 矢島 ヤイ  
 熊倉 八郎  
 齊藤 一子  
 矢島 ヤイ

石川 乙三郎  
 大角 長三郎  
 矢島 謙一  
 齊藤 一子  
 矢島 謙一  
 齊藤 一子  
 矢島 謙一  
 齊藤 一子  
 矢島 謙一  
 齊藤 一子  
 矢島 謙一  
 齊藤 一子

平久保 順四郎  
 津久野 富治





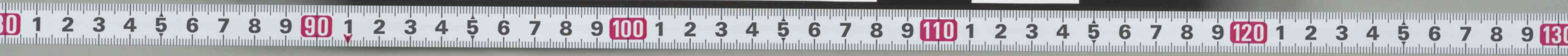
第一編 地文編

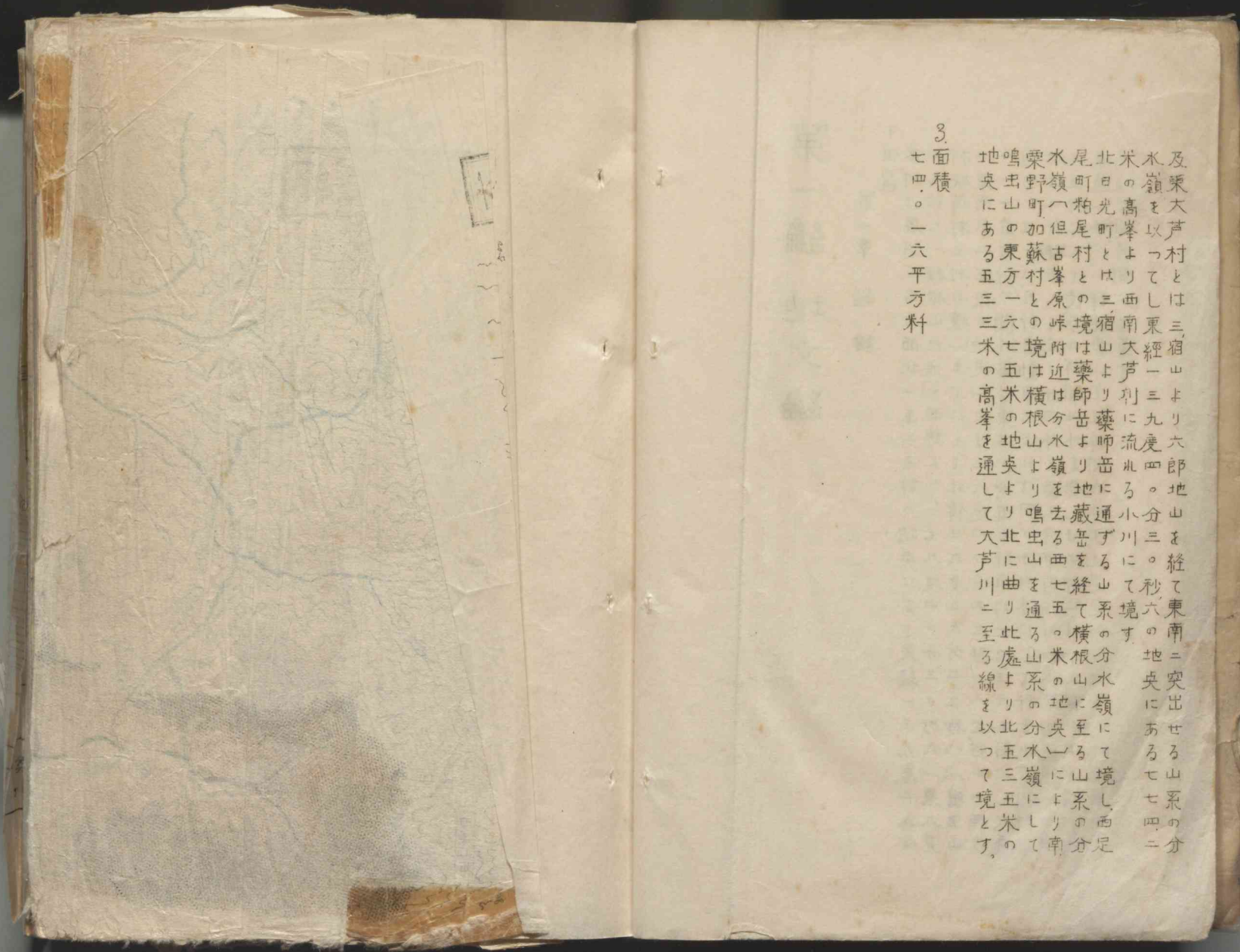
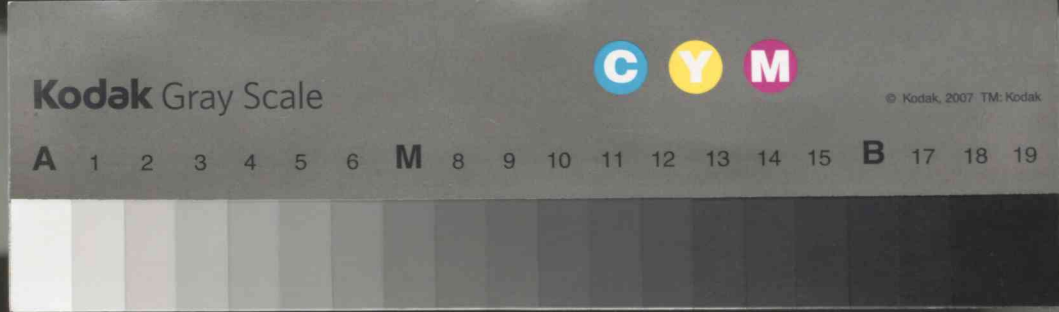
第一章 総論

1. 位置  
 本村は鹿沼を去る西北一五二五の地矣にあり東經一三九度二分  
 六秒七八横根山巴池の西端より北緯三六度四分三秒八八東大芦  
 村板荷村三村の境にあり北緯三六度四分三秒八八東大芦  
 の東南五二五の間にあり東北一四七度四分三秒八八東大芦  
 一町には五米の間にあり東北一四七度四分三秒八八東大芦  
 沼町には五米の間にあり東北一四七度四分三秒八八東大芦  
 は三八軒徒歩にて五十分内外を要し今市町には三八軒徒歩にて  
 二五軒にして徒歩四十分内外を要し日光町には三八軒徒歩にて  
 通過一軒徒歩四十分内外を要し日光町には三八軒徒歩にて  
 徒歩四時間にて着す

2. 境界  
 境界は多く山系を以つて其の主要山系を擧げれば東山來川村板荷村

この里や 横根の麓 そばの花  
 坡 窗

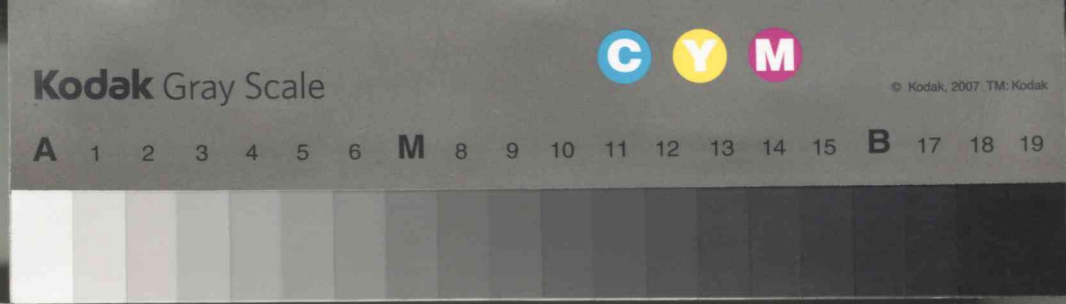




3  
面積  
七四。一六平方料

及栗大芦村とは三宿山より六郎地山を経て東南ニ突出せる山系の分  
水嶺を以つてし東經一三九度四〇分三〇秒六の地尖にある七七四ニ  
北の高峰より西南大芦利に流れる小川にて境す  
米の高峰より西南大芦利に流れる小川にて境す  
尾町光尾村とは三宿山より薬師岳に通ずる山系の分水嶺にて境し西足  
水嶺ハ但古峯原峠附近は分岳より地蔵岳を經て横根山に至る山系の分  
栗野町加蘇村との境は横根山より鳴出山を經て横根山に至る山系の分  
鳴出山の東方一六七五米の高峰を以つて境とす  
地尖にある五三三米の高峰を以つて境とす



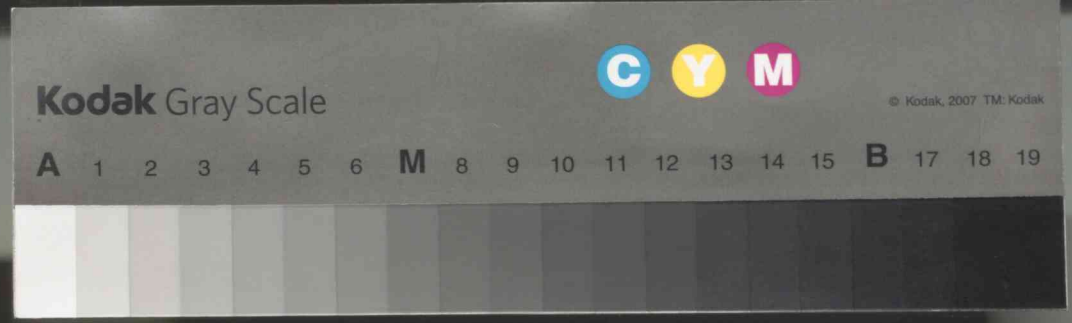


3.面積  
七四。一六平方料

北  
方  
に  
あ  
る  
五  
三  
三  
米  
の  
高  
峯  
を  
通  
し  
て  
大  
芦  
川  
に  
至  
る  
線  
を  
以  
つ  
て  
境  
と  
す



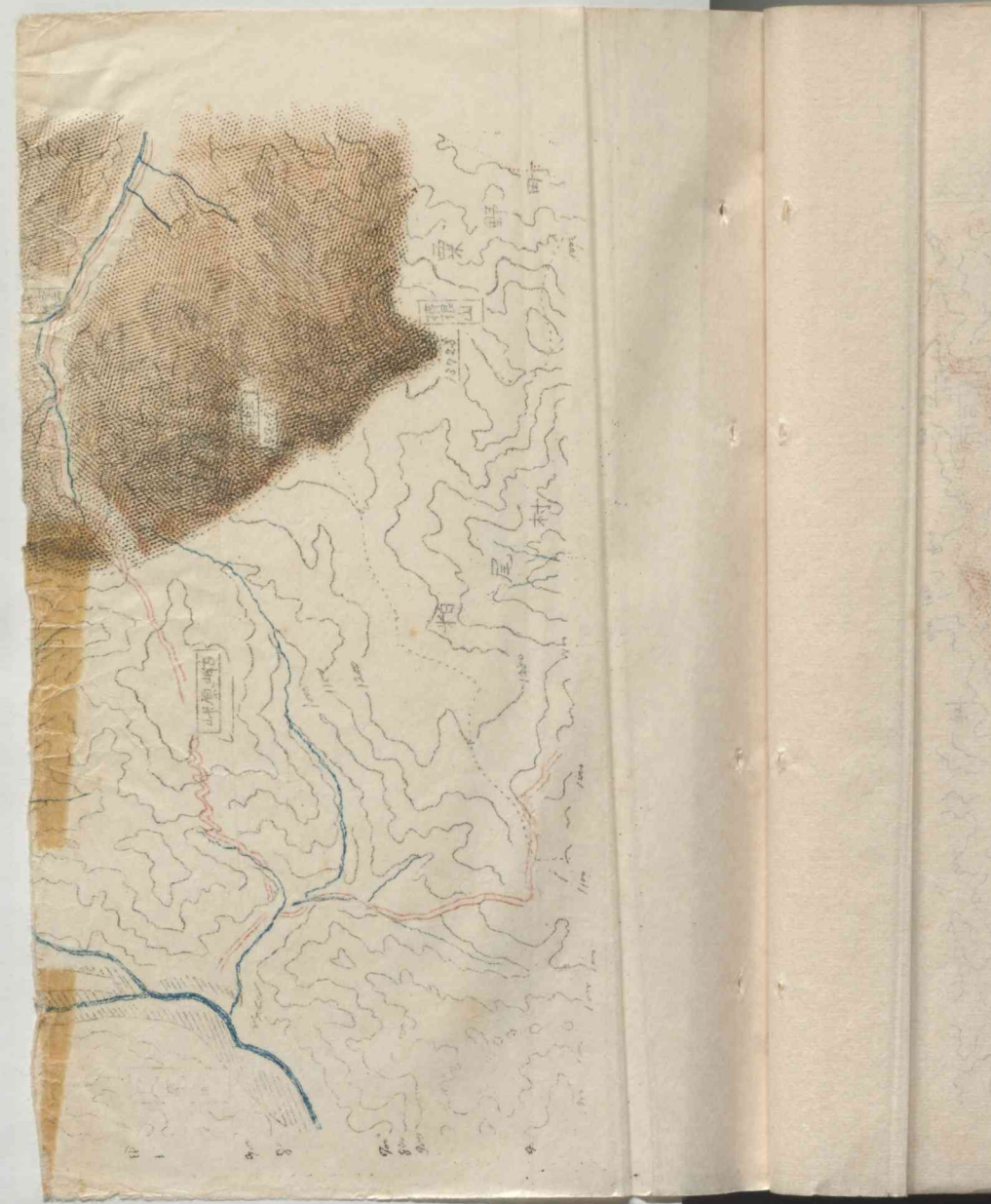
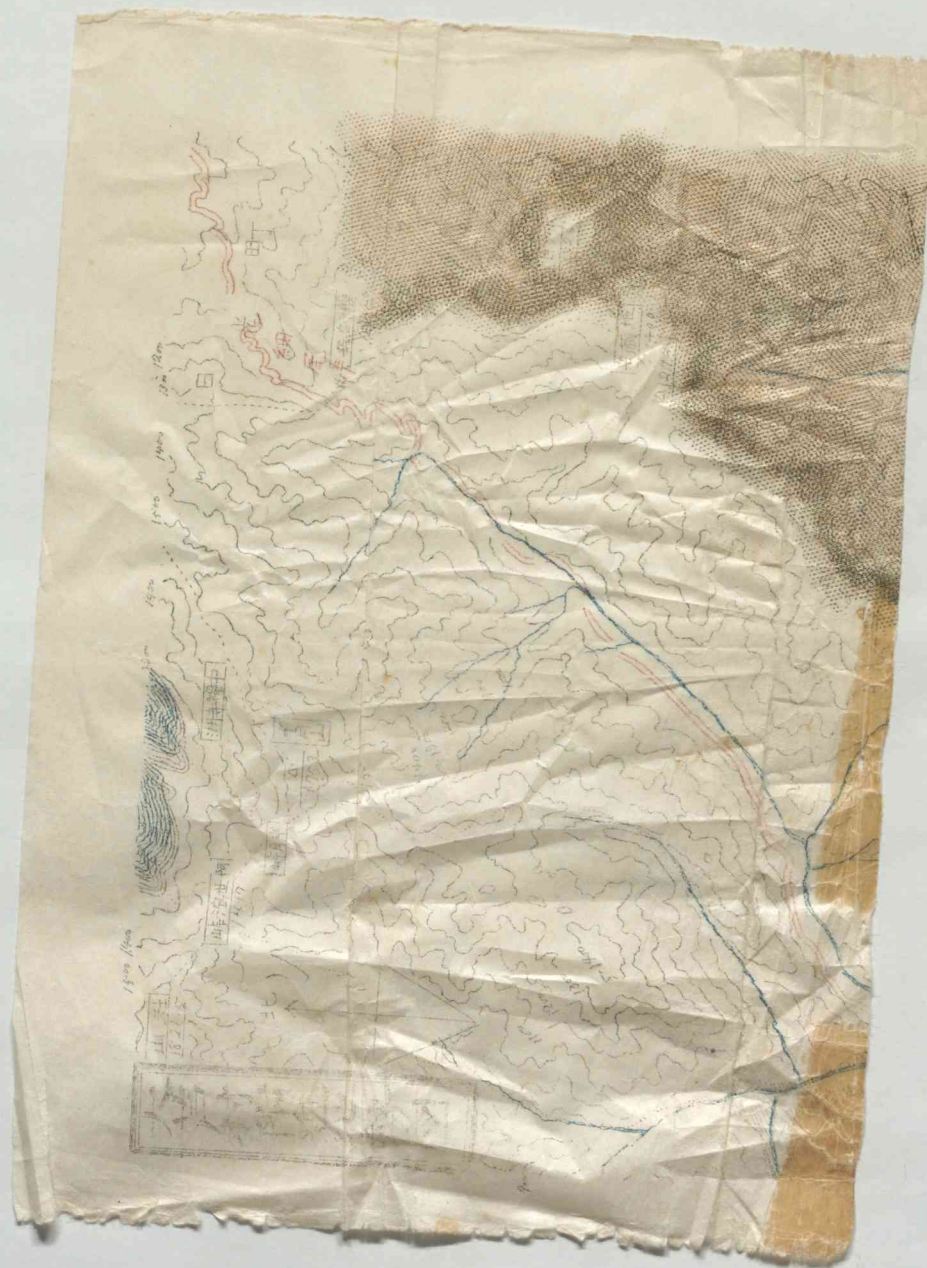
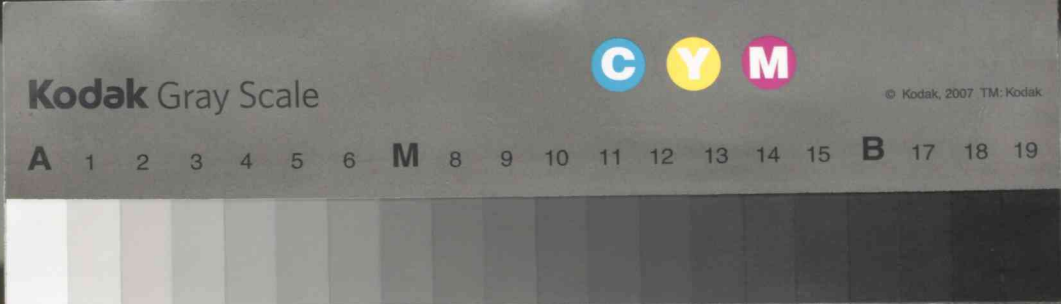




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

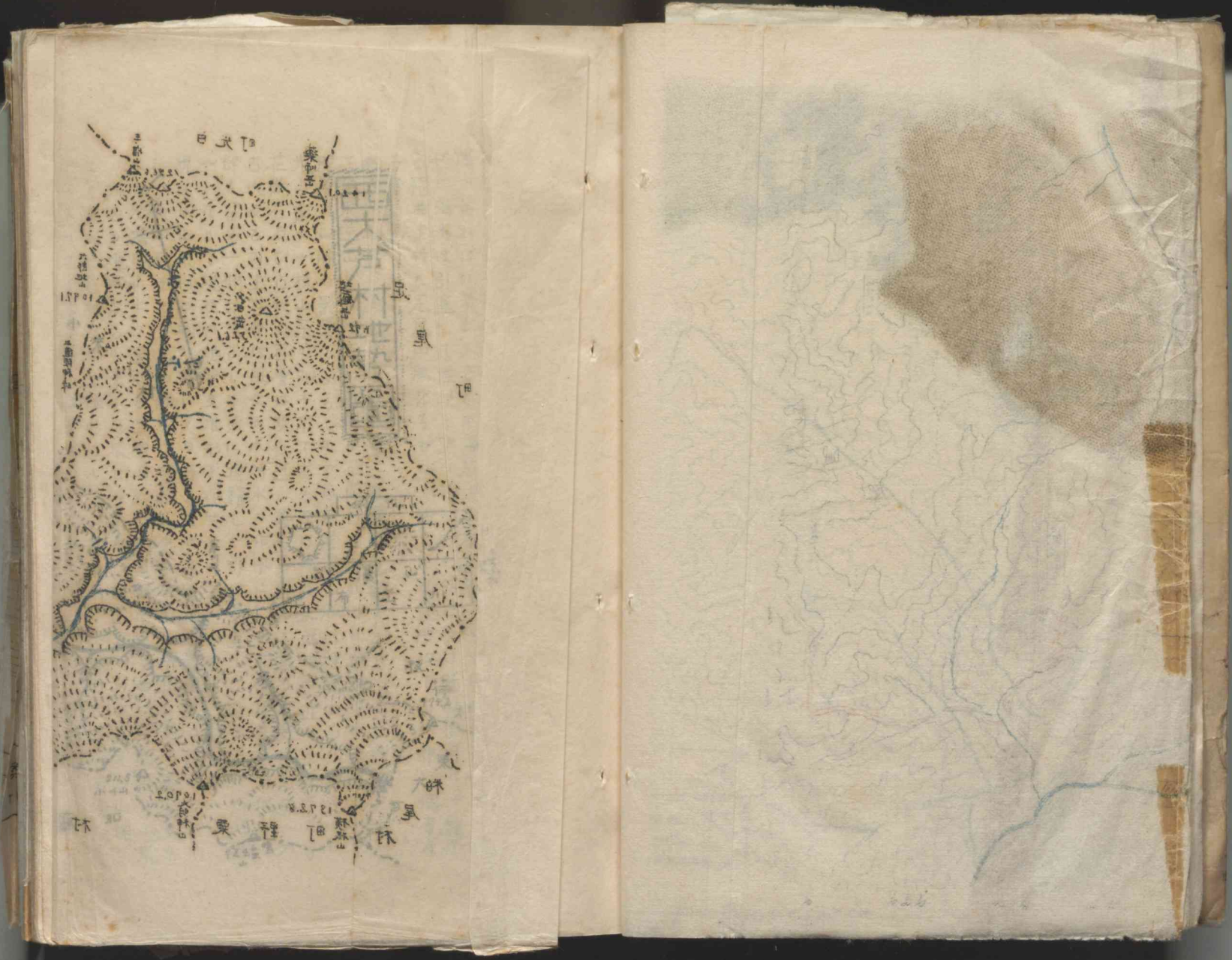
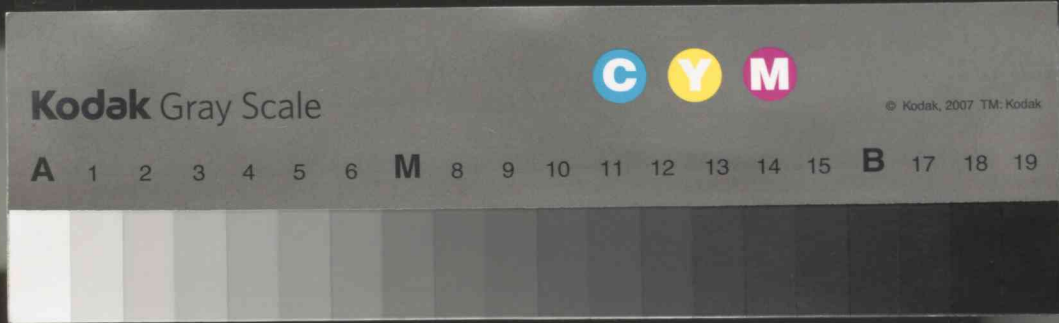




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

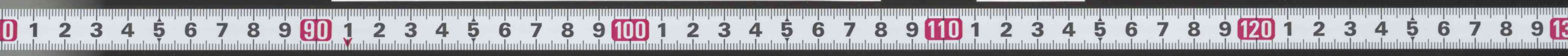
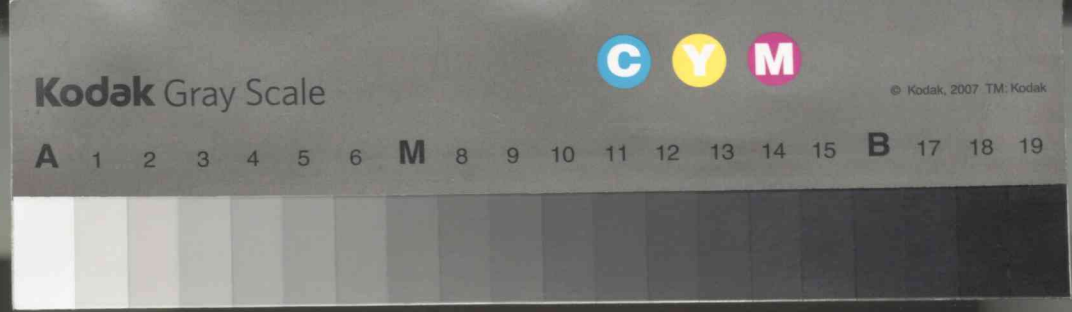


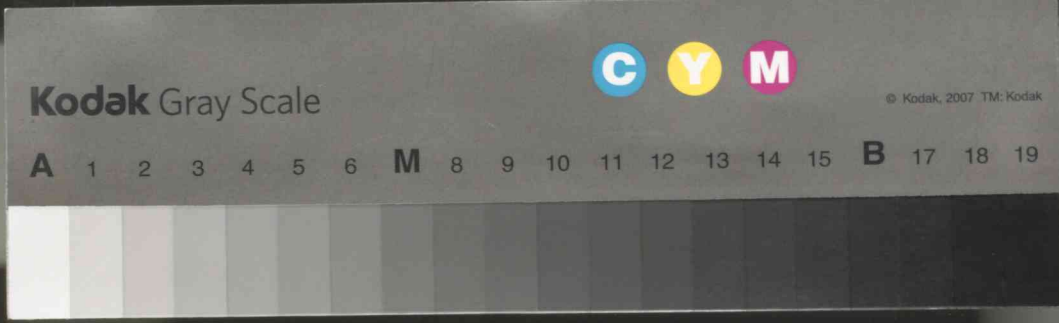
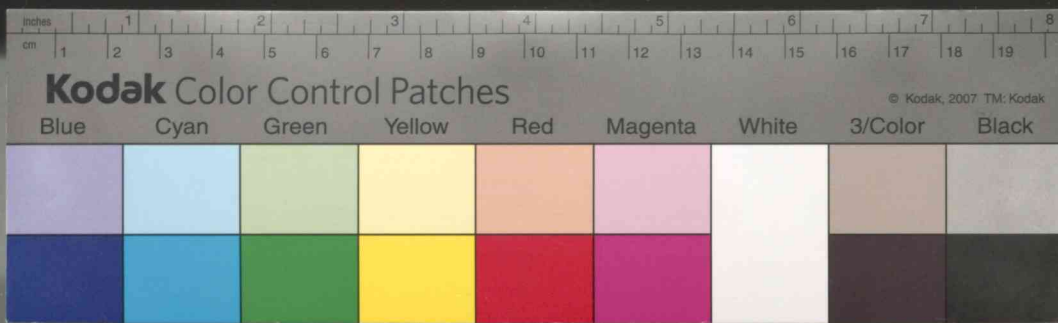


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13



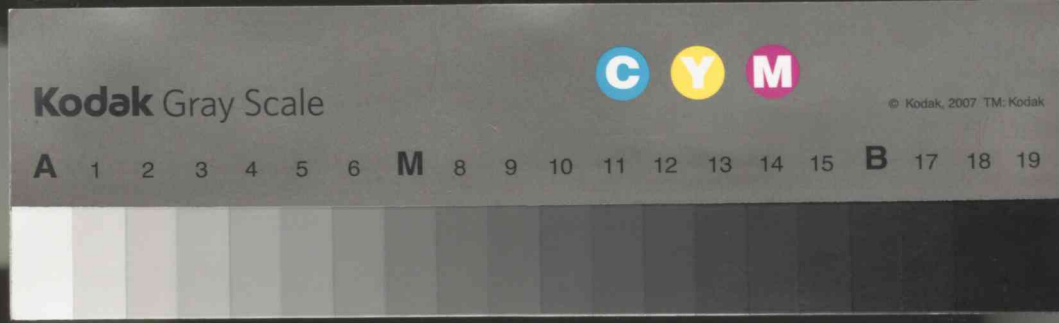
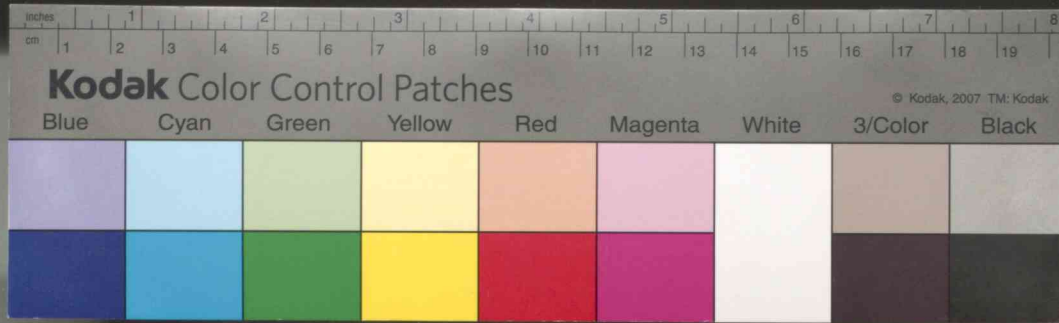




第二章 地勢

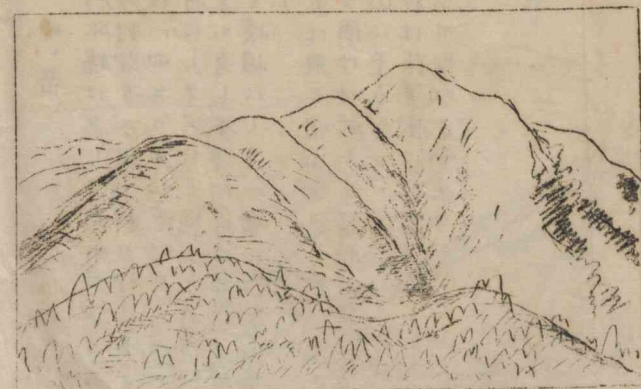
西大芦村は地質上太古代の海底泥土粘板岩でありしも太古代及び古  
 代に海水は引退して陸地となりたりこの時地表は造山作用の一種な  
 る褶曲を行ひ足尾山脈なるものを作りたり現今にても一部に個有な  
 る岩石あり然るに地盤の変動により地層に頻りに裂罅を生じたこの裂罅に向つ  
 て變來逆出した地下の岩漿が花崗岩でこれに日光山系のもので  
 那須火山脈の影響であるこれが爲前足尾山脈は埋没せられ現今は日  
 光山麓の一枝山系の様に見えるが爲前足尾山脈は埋没せられ現今は日  
 花崗岩及び古代の岩層は現存に幾多の勞力に蒙りて変化し殊に大  
 古代及び古生代は風化雨水の堆積し一部は變質して其の時代の  
 一部を留め一部は流出し下流に堆積し一部は變質して其の時代の  
 一となりて現在の地質及地形を成せり一部は變質して其の時代の  
 現在の山系は本村北部に夕岳を中心に薬師地藏附近の諸山をして  
 一つの山塊をなし又西部には横根高原を中心に南北に走る連峰あり  
 又日光鳴虫山より連れる三宿山六郎地山の南より東北に突出して小  
 川村との境にある山系を形成せり本村は前連三つの山系及び山塊に  
 て包まれ一盆地の如き地形にして一部東南の小部分大芦川の侵蝕作  
 用によりて出来たる山間を以て交通の第一要路とせり





夕日岳  
 本村の北西尾町との境にある薬師  
 地藏の峰より東に突出せる山  
 にして村内第一の高峯たり海抜一五  
 ニ六米主に花崗岩より成るも一部石  
 炭斑岩も見受けらるへ薬師岳の峯線  
 以下をスロープ  
 五合目以上は熊笹を以て蓋はれる  
 も山上一面は白樺にして高山的气  
 分表現によし東より之を望めば孤  
 山の如く見え其のスロープは東南に  
 長く東北は短くして大芦川に没し六  
 郎地山と相對峙して大瀧河原小屋上  
 方面の近の狭谷を作リ大芦川へ大瀧  
 方面の水源地在せり  
 東南の入口は侵蝕作用の爲幾つ  
 カの小峯を作り下は岩石の露出面  
 多く大樹を見受けざるも山麓には最  
 近植林を行へり

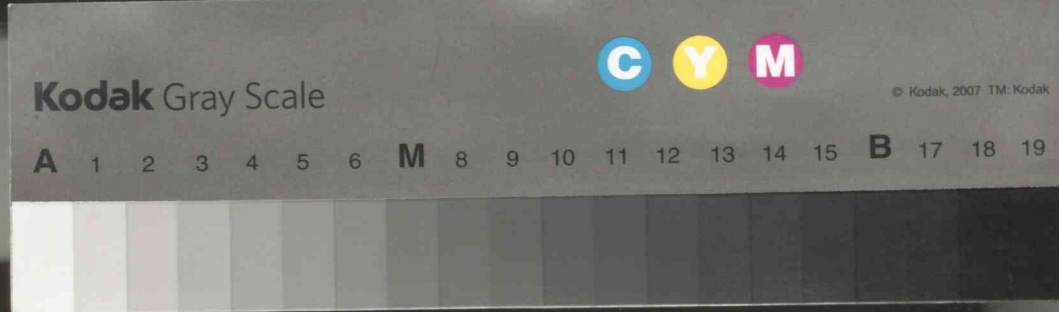
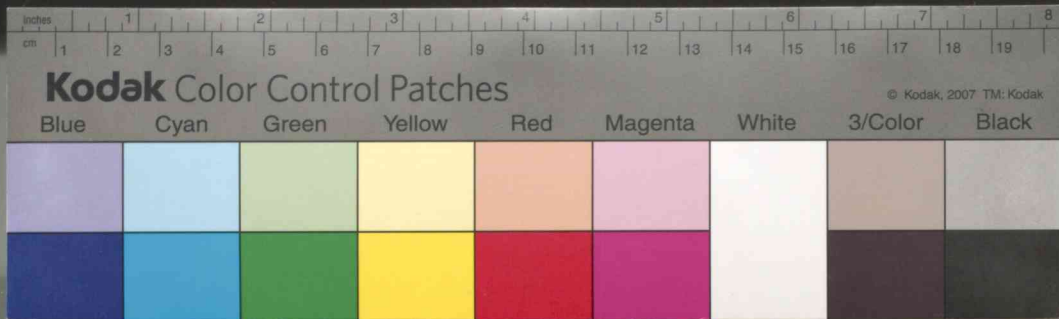
河原小屋より見たる夕日岳



大芦川は本村中央部に北西より東南に流れるものと北より南に流れるものと中央にて合流して北より東南に走るで後述の盆地地は皆大芦川の溪流に源を發す  
 山形の脊青年嶺は横根山系取も古く(一部那須火山脈の影響を受く)他は同時的のものを見らる  
 横根山系を横ぎる溪谷は廣く又傾斜緩不在に夕日鳴田山系の溪谷はグレートに至らず處々に急流瀑布狭谷の出現を見る

二水三峯上り見たる鳴田岳





三宿山  
 薬師岳と共に本村の北端日光町  
 小来川村との境にあり海抜一  
 四米にして全山落葉樹熊笹を  
 もつて蓋はれし山麓は岩石  
 突出し侵蝕作用を逞しうせり  
 山系をなす南は六郎地山より南  
 東に走り小来川峠を通りて板荷  
 村と東大芦村との境にまで突出  
 せり  
 西は峯續きに薬師岳と連結せり  
 岩石は花崗岩なり

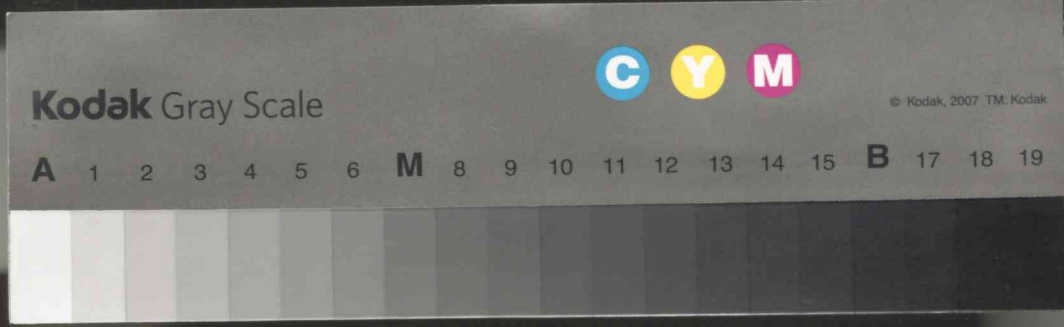
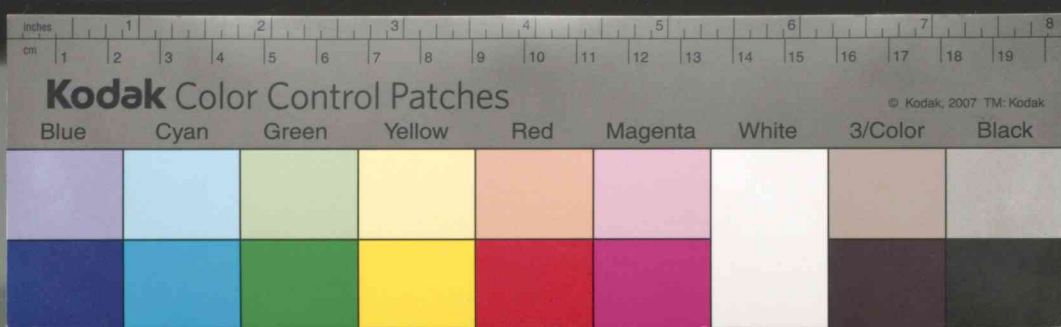
川来六郎地山子前より望む



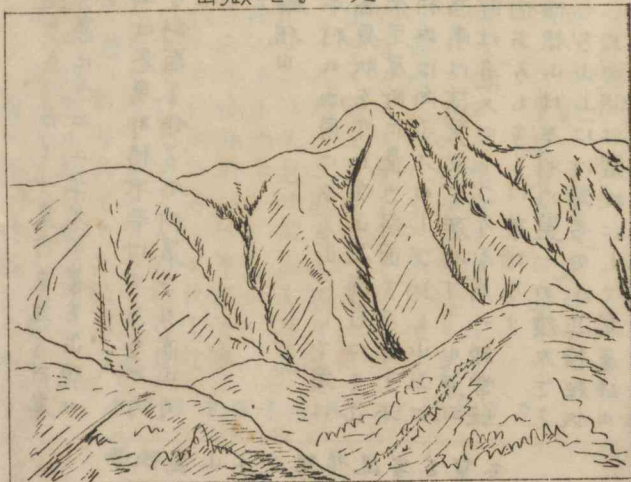
上道陸神峠より薬師岳を望む

薬師岳  
 本村北端にあり日光町足尾町  
 大芦村即ち二町一村の境にあり  
 海抜一四二の米にして岩石は  
 崗岩にして夕日と同じく石英  
 岩をも有し本澤附近は非常な  
 多く峻嶺にして一帯に岩石露出  
 せり  
 山系は東三宿山より日光鳴出山  
 連り南は地藏より横根を経て鳴  
 出山に至る  
 地表は落葉樹にて蓋はるも本  
 葉松の殖林を営めり





岳藏地ろた見りよ校西



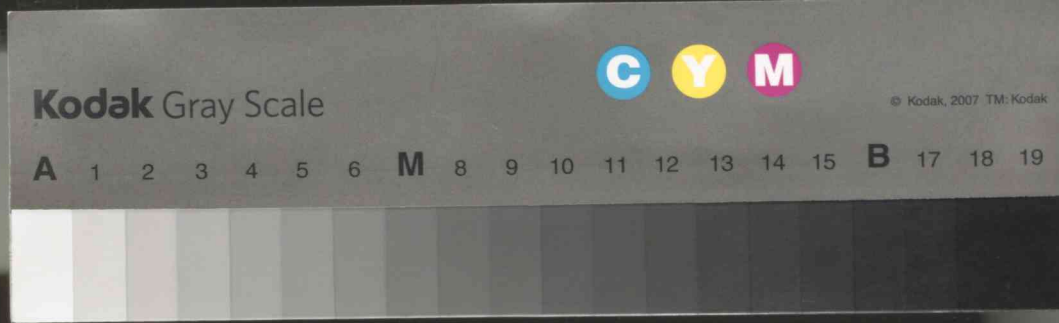
地藏岳  
 薬師横根の山系中にある一突  
 出峰にして海抜一四八余米に  
 じて山表は熊笹にして岩石多  
 く全山花崗岩にして山麓には  
 太古代の変成岩をみ見うく  
 スロトプは東は夕日岳と共に  
 藤平谷の水源をなし短きも南  
 は非常に出し川中島古峯原  
 の連続線上に於て斜面を三方に  
 分ち一は川中島をなして白井平  
 地に至り急ス口一は遠く古越路  
 地を至る  
 其の間幾多の小峯起伏せり今  
 之を古越路より順次に上げれ  
 ば下の向落合の逆線上に六三  
 六米の小峯起り又松手白井平  
 間に八八二の小峯ありそれを

六郎地山  
 本村の北部山來川との境にあ  
 る薬師三宿鳴虫（日光の山系  
 中にある一峯にして海抜一四  
 七米にして全山花崗岩にて別  
 巒蒼たりし絶頂は二つに別  
 巒蒼たりし絶頂は二つに別  
 樹木少く岩屑散布せり  
 西側は傾斜急にして麓まで大  
 にまき前速夕日岳と對して大  
 極りなき勝景地を対して大  
 大龍も此の山麓にあり

山地郎六ろた見りよ峠川來川

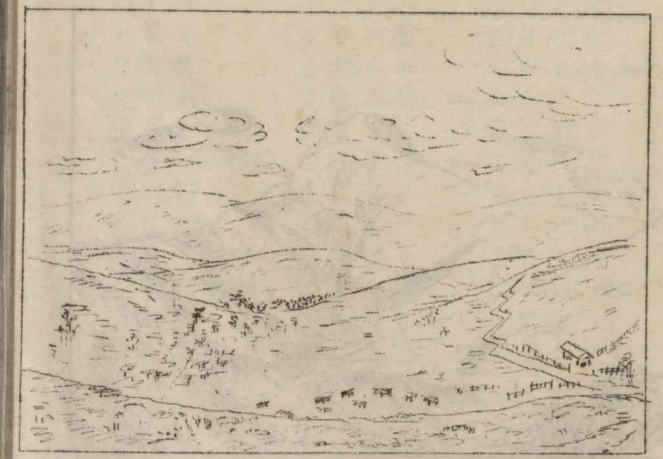






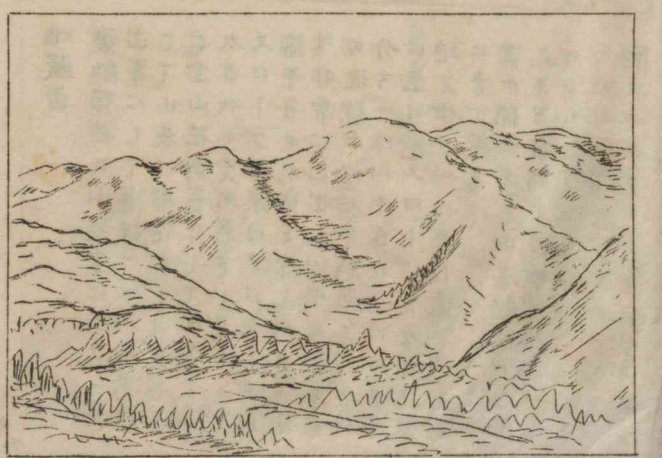
現さへ見らる  
最高峰は海抜一三七二米にして  
大芦川（古峯原方面）の源をな  
せり  
渠平原は北古峯原峠を過ぎるに  
したかひて又峽なる山塊と変  
り南は最高峰一三七二米の地  
より又峽なる山塊をなす  
山に至る高峯に三枚石と稱する  
横根山の高峯に三枚石と稱する  
花崗岩よりなる岩塊突出し其處  
に金剛山をまつる  
この岩は侵蝕前即ち平原なり  
し時代の今はこの上に粘板岩及  
古代に於てはこの上に粘板岩及  
びローム層を見たるべくそれ  
か波瀾に平行して出来たる  
断面即ち横根山脈侵蝕作用による  
り前速の岩塊を弱き侵蝕せられ  
及び口一層は弱き侵蝕せられ

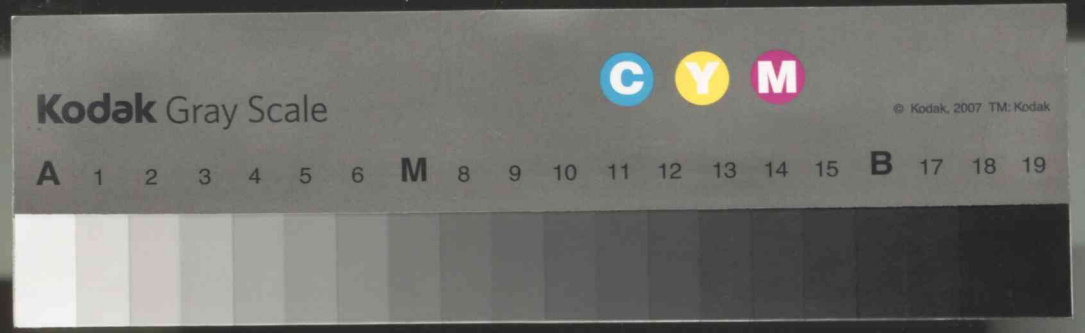
古峯原峠より見る横根山平原



横根山  
本村の西南にある山にして頂は  
高尾山に長き斜面をなすも本  
來足尾町に長き斜面をなすも本  
村内は向小松を殖すも東の  
西は急スロップなる為常北  
部は急スロップなる為常北  
樹根は多し第一の雄大さ  
横根山は本村第一の雄大さ  
もち山には幾多の小丘起る  
し丘稜間には混地にして足尾  
南には巴池と云ふ小沼をさへ  
出

西校裏山より横根運峯を望む



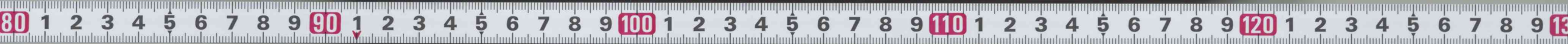


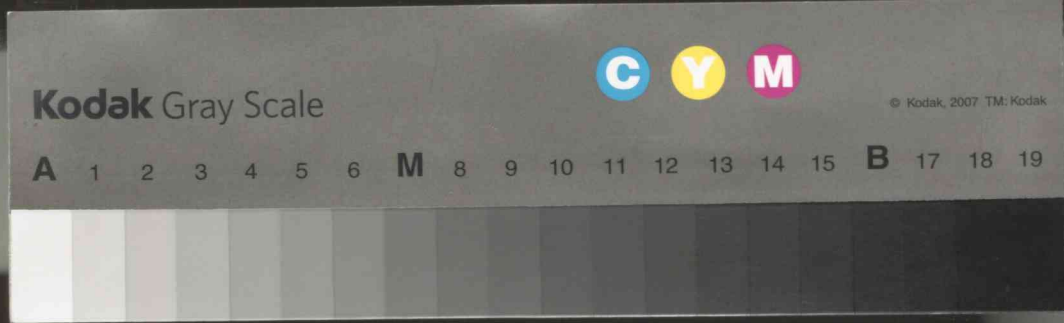
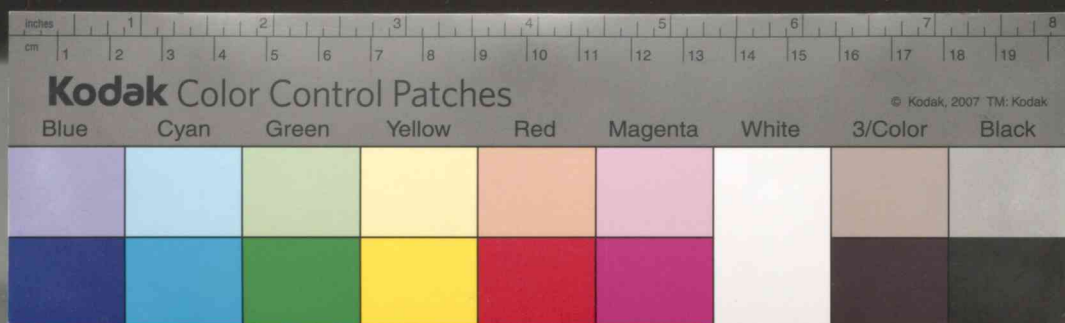
一 峠  
 上下小保川峠  
 北南面は上久保を流れる大芦川の支流にありて海抜四一の米に  
 蝕せりれこの侵蝕谷にそつて西村の交通をなせり  
 二 上小保川峠  
 この峠も小保川今市方面との交通の為に作りたる峠にして海  
 抜四六米南面は八岡より大芦川に入る支流の侵蝕谷を利用  
 して道路を作り傾斜非常に急なり北面道路は又非常に傾斜ゆ  
 るやかにしてこれ黒川に流入せる支流にそつて道路を作り  
 しもなり

三 上道陸神峠  
 上年保より小保川村に越しこれより小保川村日光町境にある  
 瀧河原峠を通り九櫻澤を過ぎて日光町花石町に通ずる峠にし  
 て海抜八五七米あり昔は日光町の交通に重要な位置を有  
 せしも現在に於てけ使用まれなり

鳴田山  
 本村の東南加蘇村との境にあり  
 海抜七二四米の山にして前諸  
 山に比して速なる程の事はな  
 れども周囲の山皆な現しを  
 優美にして変化あるを現し  
 れば其の名は村内に聞えり  
 構成物は花崗岩にして地表は  
 層にて全山に緑樹鬱蒼たり  
 山系は鳴田山より東走して  
 下南厚に至り関東野にその姿  
 没せり  
 他は横根に等し

五望ま山出鳴り上崗ハ





四三宿峠  
大芦川河原小屋大瀬方面の上流の侵蝕面を利用して日光町細尾とを通ずる峠にして三宿山の西麓を通るものにして海抜一四五米あり本村奥地の人は商用はこの峠を通りて日光清瀧に行くに用ふ

五地藏嶽峠  
古峯原より日光中宮詞に通ずる道路にして地藏嶽西南山麓一ニ七二米にして道路は非常に困難なり

六古峯原峠  
この峠は古峯原より足尾町に通ずる峠にして海抜一三三五米を最高部とするもの地味は足尾町にあり  
この峠は山は高原状をなし准平原をなせりこの峠は大芦川古峯原方面の上流部にさうて道路を作りたるものにして古峯原方面よりは一里一里平原一里下り二里あり本村峠に於て第一の要路たり  
足尾方面は渡良瀬川支流を逆上りて道路を作りたるものなり

七栗野峠

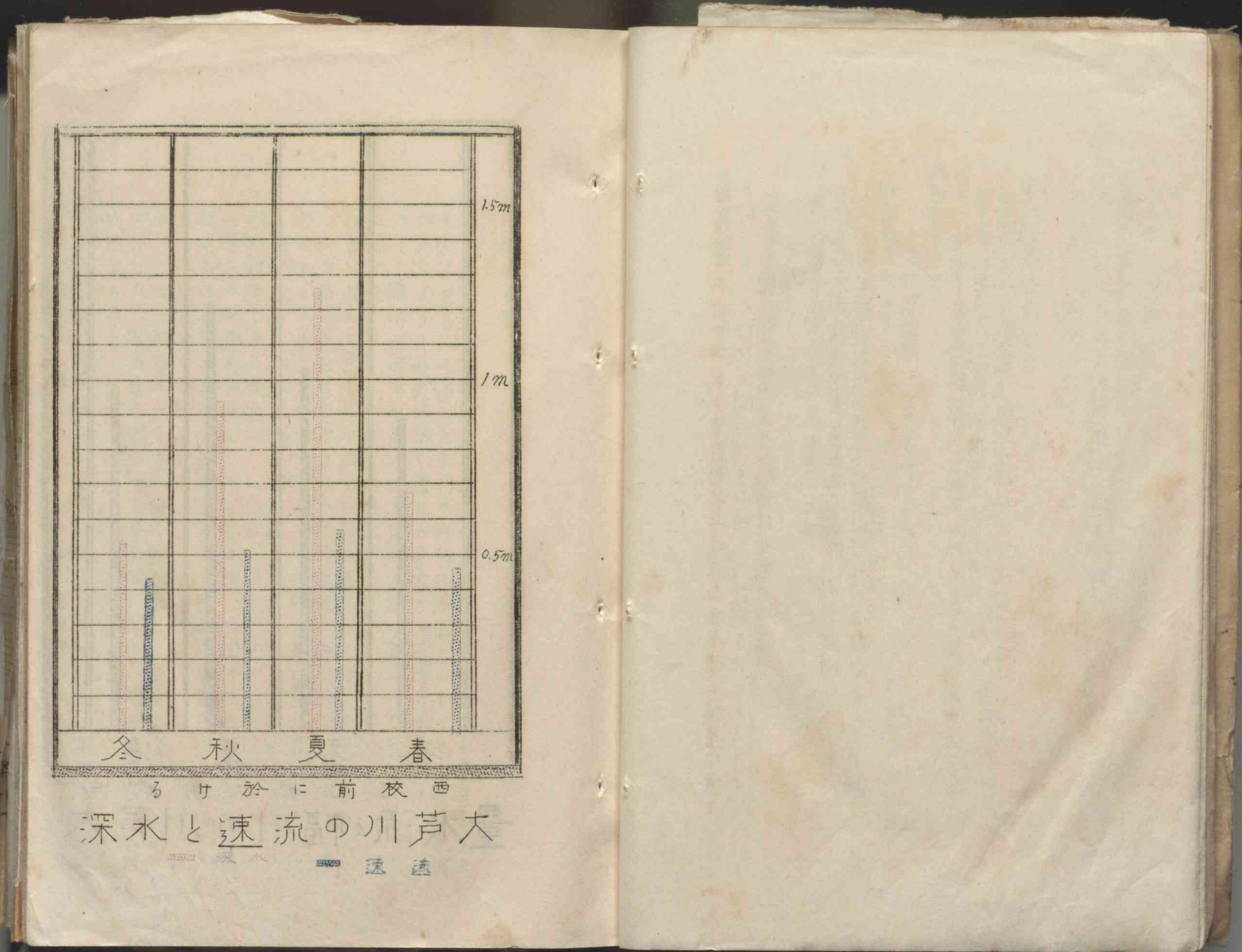
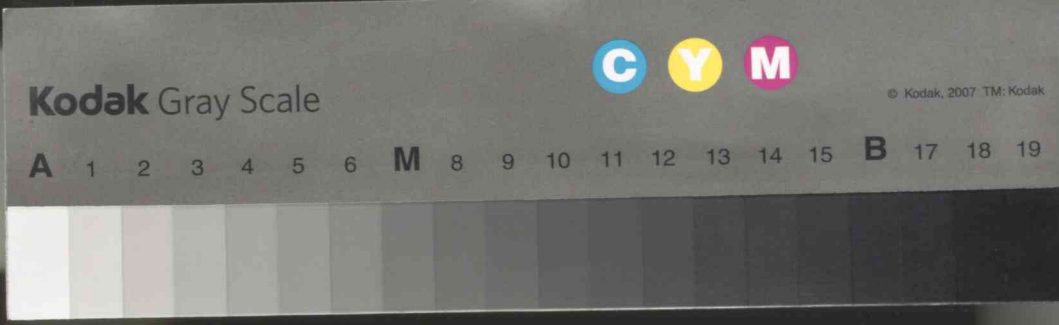
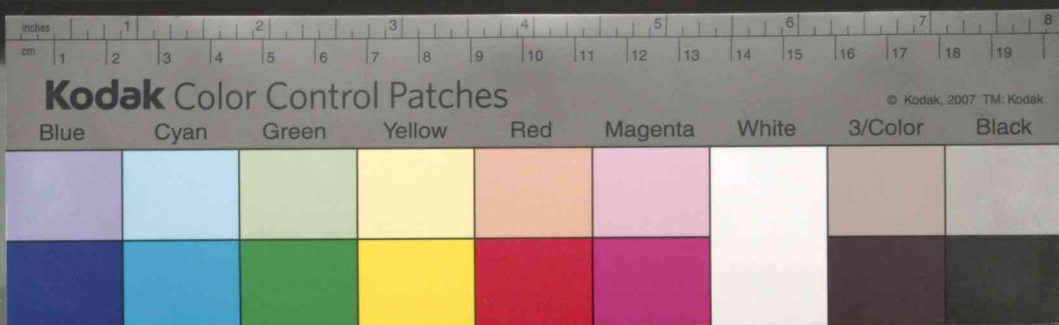
この峠は本村下向より栗野町上五月及び粕尾村上粕尾に通ずる峠にしてやはり山間の澤を利用して道路を作りたるものにして最高部八七〇米にして傾斜は非常に急なり

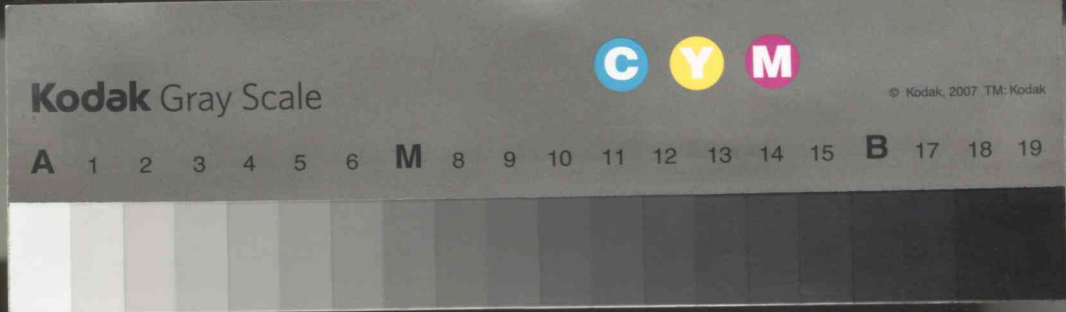
八小川峠(寄栗峠)  
本村小川と加蘇村寄栗とを通ずる峠にして海抜六〇八米にして本村古峯原神社と加蘇村加蘇山神社の参拜者多くこの峠を利用せり

九塩澤峠  
本村塩澤と石裂(加蘇村)とを通ずる峠にして海抜五四五米あり鳴出山の西方にあり  
塩澤峠は一寄栗に通ずる峠にして海抜六二七米あり共に通交者は少なし

一〇大久保峠  
上大久保より上久我(加蘇村)に通ずる峠にして海抜四九〇米にして鳴出山東方にあり







イ岩屑の分布

本村に至る所岩屑散布し居り河道は勿論平地にても岩屑よりの形成を見ること多し又本村の台地は周囲の山より風化侵蝕諸作用によりて岩屑流出し礫大の岩屑さへ畠地に多し

今その岩屑の分布状態を主なる地方別に述べ

大久保附近

地表に現れて居るものは主に粘板岩にして他に石英斑岩あり角なくまるみある岩石なり大いさは直經二種以下にして殊に一種内外のもの多し當地方々ても下大久保方面は散布岩は大きく又非常に多きも上大久保方面は岩屑小さく其の分布も少なし

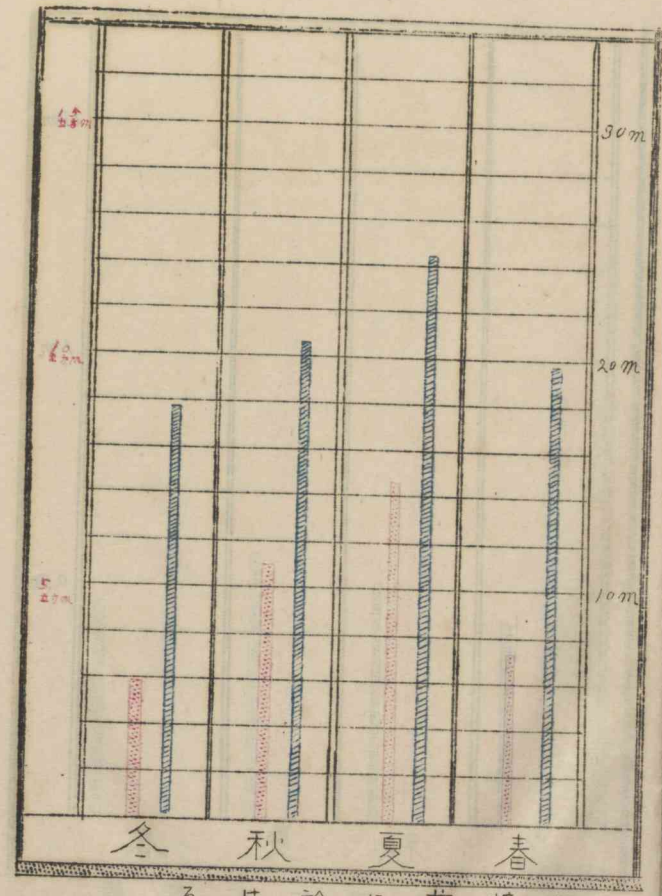
下岡附近及古鹿入附近

分布岩は花崗岩の風化したるものにして深所に於て凝固せし花崗岩即ち石英の大なる結晶あるものが風化せるために散布せるものは結晶せる石英多し

大いさは一般に大きく大久保に近き土地にありては分布割合に少きも北に進むにしたがって多くなり古鹿入附近は分布岩小く

く非常に多し

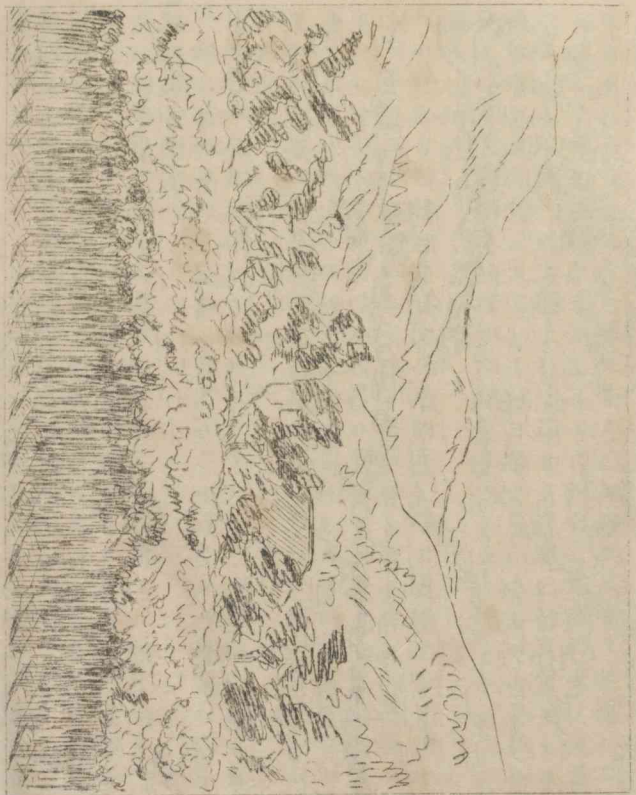
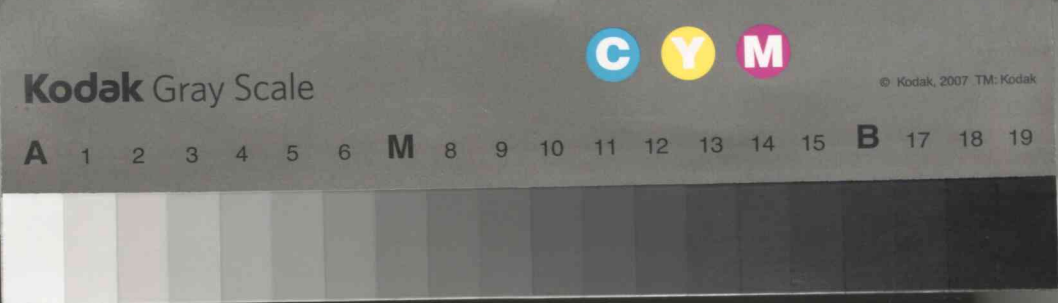
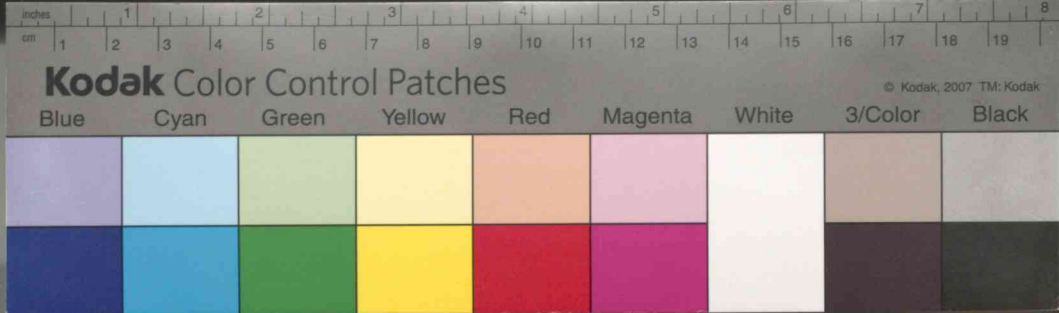
當地方に於て最も大なる岩屑を見るは中畑にして本地方に於て石英斑岩なども見らる中畑に於ける岩屑は角を有し居る



西校前に於ける大芦川の川幅と流量

大芦川 幅 流量

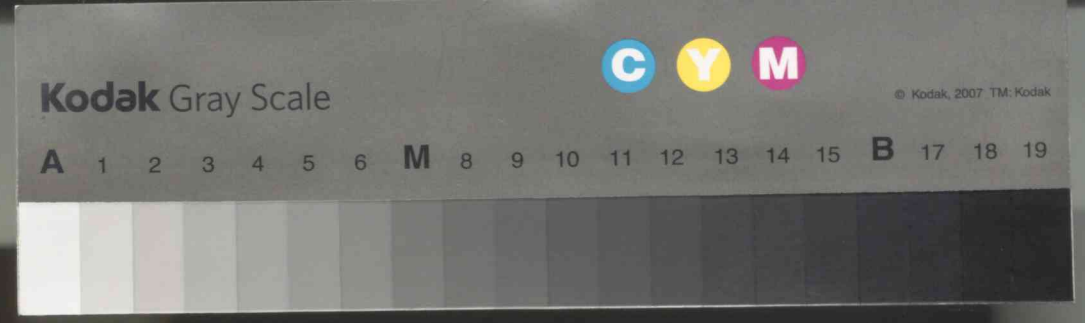




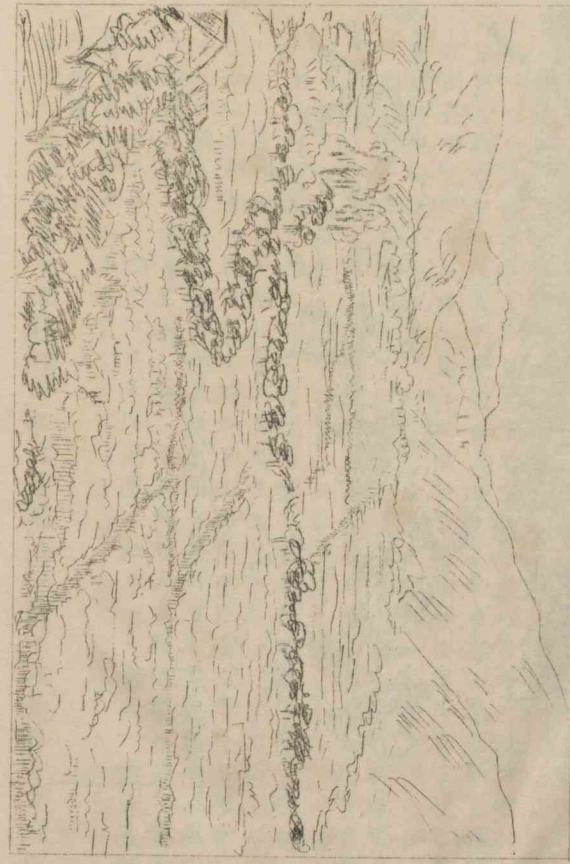
八幡に於ける森の景 (1)

前記の石英の最も多きは古鹿入にして此の地は非常に園藝に適  
 セリ  
 塩澤附近も中畑に等し  
 鹿入附近  
 鹿入は河岸段丘最もよく發達せし所なれば岩屑も段丘地に於て  
 は多く岩石は上流より運搬せしものなれば角はなくまる味ある  
 花崗岩なり然し又段丘面によりて分布状態を異にせり段丘面は  
 三面よりなり  
 A面はへ山地に近き面は岩屑少くして山中の岩石崩解により  
 て流出したるものなれば粘板岩多く尙あり又鋭く矢根石の如き  
 形をなせるもの多し  
 B面は岩屑多く又大にしてまる味あり岩石は花崗岩なれども他  
 に少しく粘板岩の類に屬するものあり  
 C面は又非常に岩屑多く耕地としてけまた長き年月を用するが  
 の如き観あり今は唯草地又は桑畑としのみならず岩石は現在河道  
 に堆積しつゝある岩石に等しく花崗岩又は粘板岩の礫なり大  
 は割合に大さく所によりては河道の如く一。種ニ。麩の直徑を  
 有するものさ一あれり  
 八幡附近  
 同地も鹿入の如き堆積地なれば岩屑も上流の花崗岩及古代に於



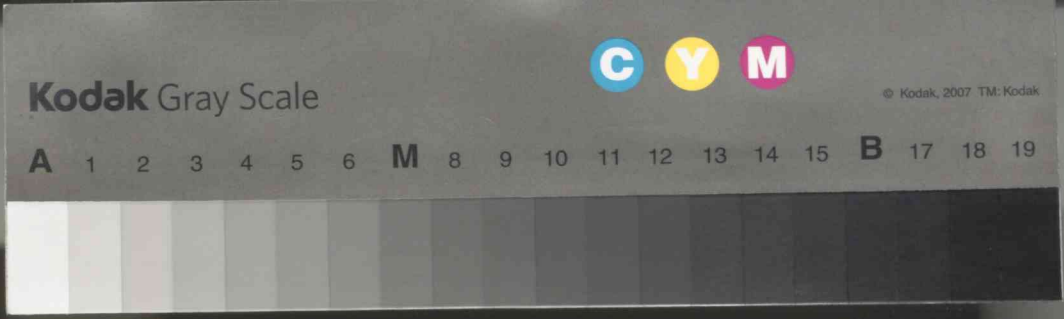
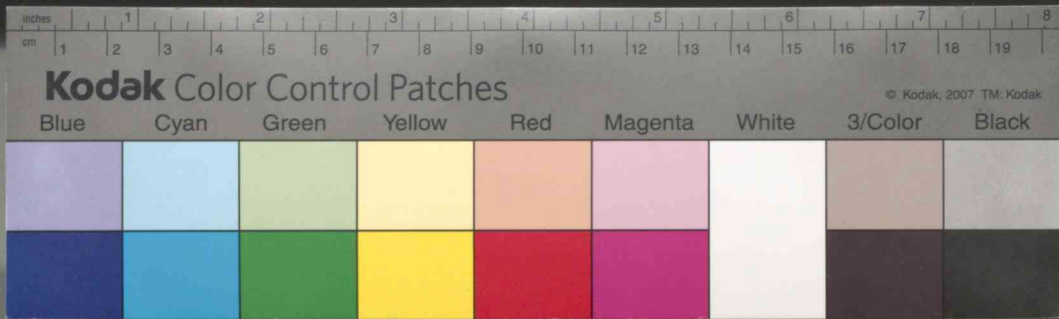


ける水成岩なり大ききはなるもの礫大にして岩屑に二種あり  
 上流より運搬堆積せられしものは割合に花崗岩多く又角を有せ  
 ざれども小来川方面より流出せる岩屑は砂岩質のものにして  
 角を有し又割合に大にして終三種ぐらりのもの少なかりず  
 引そくの代表的産地はこの地なり  
 内倉小川附近  
 此の地方も堆積地にして八崗附近とほぼ同様なるも唯此の地  
 は河段に堆積物の上にロームの層を有し居れば岩屑の分布他  
 に比して少し分布岩は粘板岩の変質したるものにして皆もろく  
 風化し居り大いさは終一五種以下のも多く花崗岩はみとめず  
 又小川方面は角の鋭き粘板岩非常に多く分布し居る  
 面手附近  
 花崗岩の風化崩壊せるものにして大きさは礫小にして角なく又  
 一部小来川境の連峯より流出せる水成岩の一種をも見らる  
 古越路落合附近  
 共に河岸段丘地なれば分布せる岩屑は前述の段丘地とほぼ同様  
 在れども此の土地は二川の合流点なるため石も種類多く火成  
 水成の両岩入りまじりて散布せり火成岩として花崗岩及び石  
 英斑岩水成岩としては粘板岩及泥板岩なり  
 落合方面はそのうち粘板岩の変質岩及び大理石の散布せるもあ



(四) 培養の森をせ用利を分布局 地付本



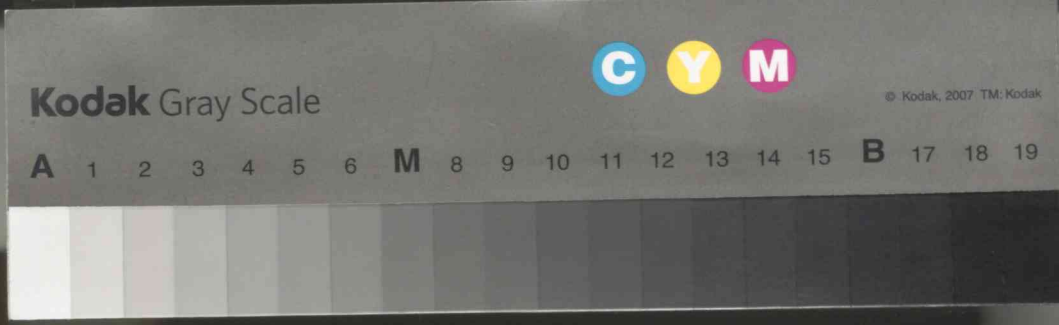
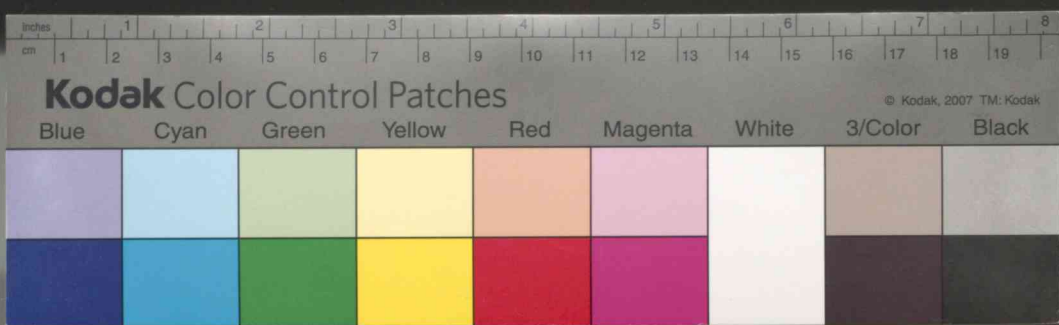


夕日岳東の山麓より破壊作用を受けて流出したる岩石か又はこ  
 の地の岩石の崩壊せるもの多し  
 堆積作用によりて出来たる土地なれば分布せる岩石は角を有せ  
 ず又割合に小なり裏山より流出せる岩石も少し見受く岩石は花  
 崗岩の風化せるもの多く又水成岩として粘板岩及び之が變質  
 岩もあり又土地により深所に培唱せる花崗岩風化し石英の  
 結晶体のみ分布し居るところも一部見ゆ  
 龍花附近  
 礫小岩より以下にして水唱を混する岩屑及び花崗岩石英などの  
 散布多く又場所によりて異なる西端部は花崗岩の崩壊せる石英の  
 結晶体など多く東部には小さき火成岩多し  
 松古峯原附近  
 此の地方の岩屑は西部は花崗岩東部は粘板岩類の岩石多し東部  
 松手方面の粘板岩は質の悪きものにして又砂岩をも混有せり大  
 きさは大体礫を以つて最大とするも所により経一の種餘の岩石  
 をも含むことあり  
 一般に鋭き角を有せり

白井平川中島附近  
 此の地は太古に於ては池沼地かとも思はれ現在は盆地形をなし  
 岩屑は角あるものと角無きものと混合し居り岩石は花崗岩の風  
 化せしもの多く大ききは礫大以下にしてこの地方一帯に散布せ  
 り  
 上流よりの堆積物は後述の落平河原小屋上年保方面のものにし  
 て破壊崩出せしものは地蔵山麓のものなり  
 然し川中島方面は一般に小さくしてまる味ありそれ此の地の  
 台地は二川の合流處になつて居りしも平常に於てはこの地の岩  
 石流出といふことはなくむしろ普通は堆積しつつある現状なり  
 落平附近  
 この地方は夕日岳及地藏岳の山麓にして岩屑は河原小屋上年保  
 方面とは其の形上に於ては等しきも岩質は異なり多く水成岩に  
 して角は一般に鋭く(粘板岩)又花崗岩のマグマタイト岩脈帯  
 崩壊物中には水唱を含有する岩石も分布す  
 河原小屋上年保附近  
 この地方の岩屑は礫大より以下にして角は鋭くこの岩屑は多く



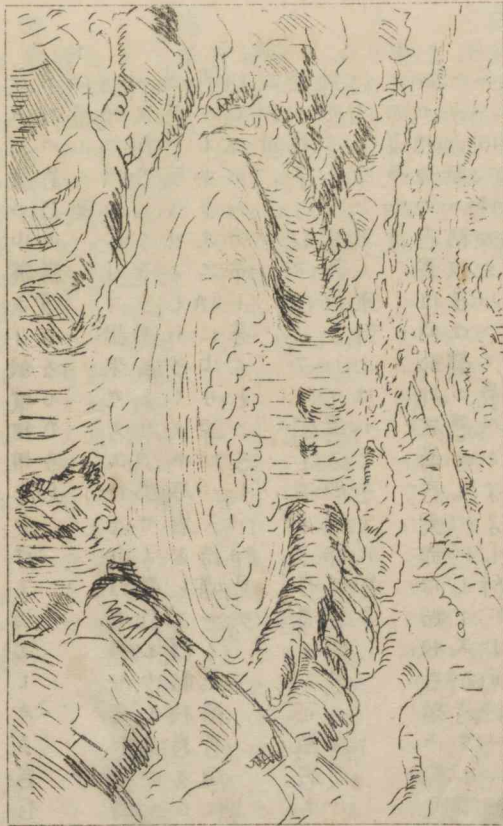




大瀧の歐穴  
面積は約二十八平方米にして岩石は粘板岩及び粘板岩の変質したるものにしてこの歐穴は大瀧の途中にあり一瀑布の圖参照一第二段より下は眞黒なる粘板岩露出し居るも歐穴をなす岩石は変質白色をなせりこの変質をなしたる弱き部分が水力により侵蝕せり水前示せる形となれり。

川中島及び落平の歐穴  
二つの歐穴とも大瀧の歐穴と大いに於ては等しきも其の形は不鮮明なり  
岩石は粘板岩の変質したるものにして共に広く瀑布の瀧壺をなせり

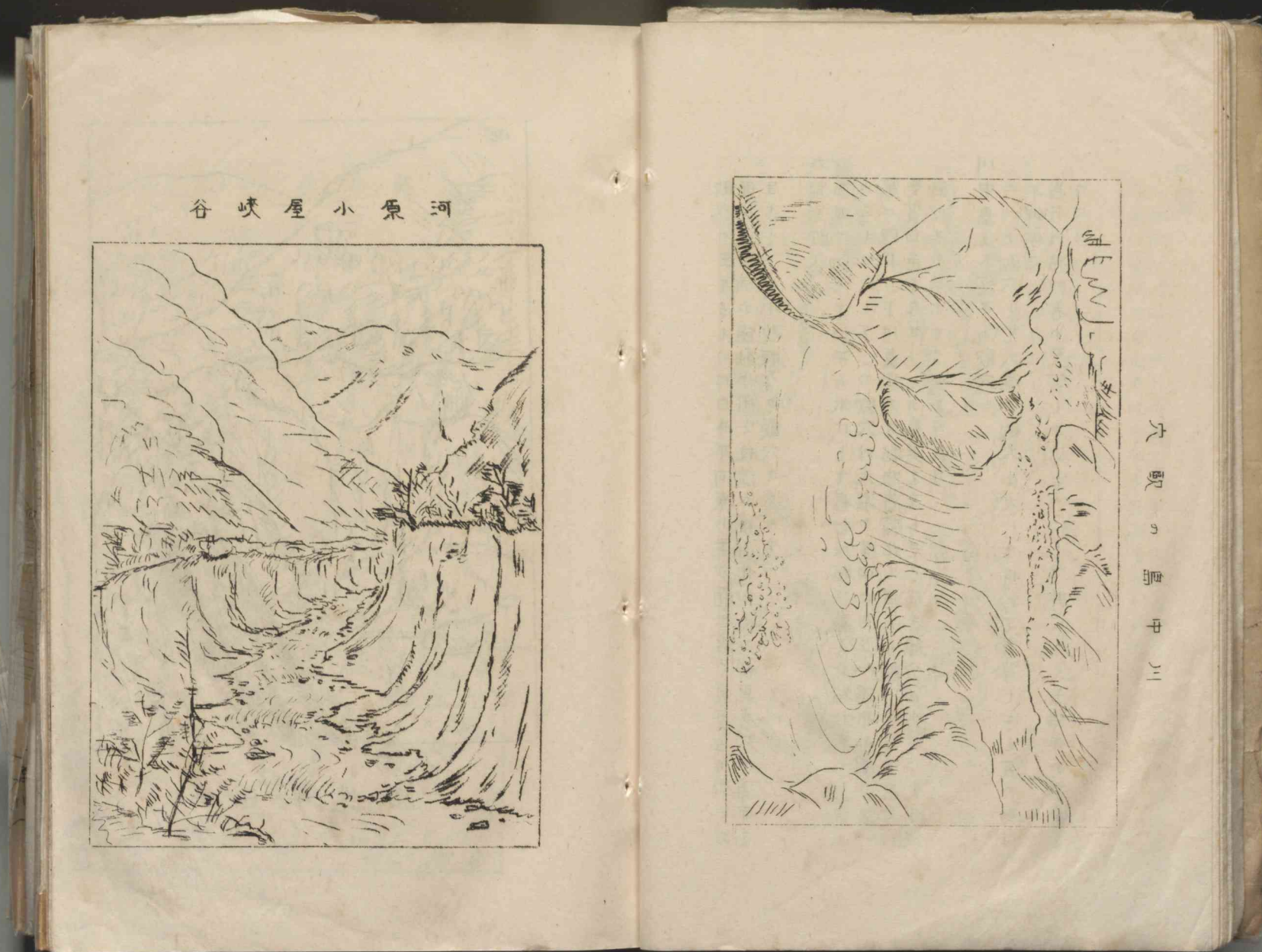
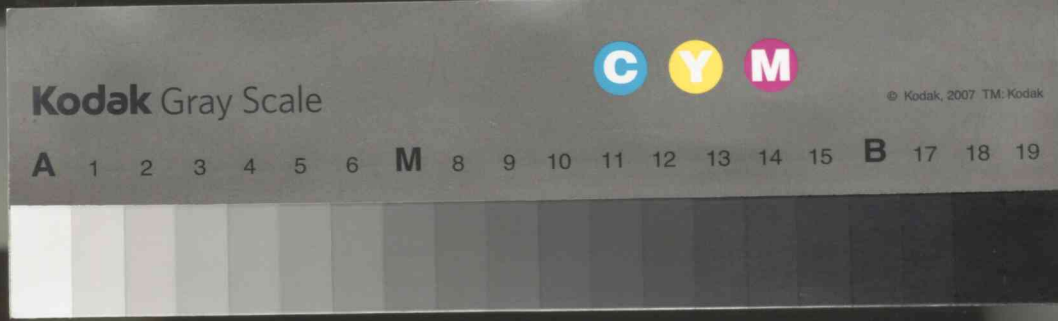
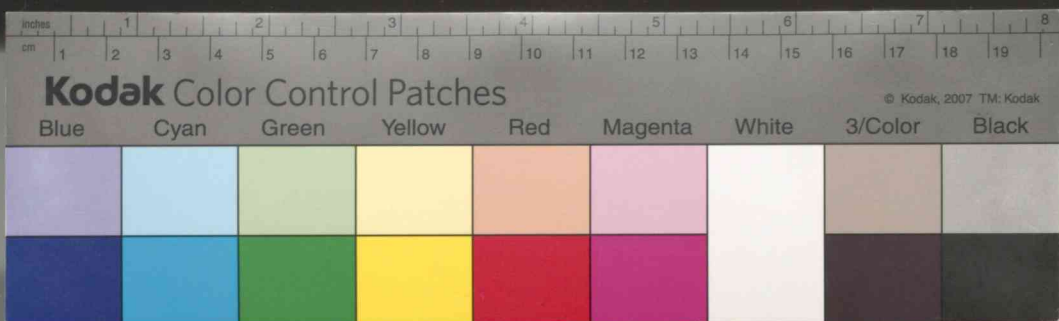
歐穴の主なるものは白井平原小屋方面に多く見らる下流の方面には本流の侵蝕作用と支流の侵蝕作用との相異点に小瀑布を生じ、に小規模なる歐穴を見らる。



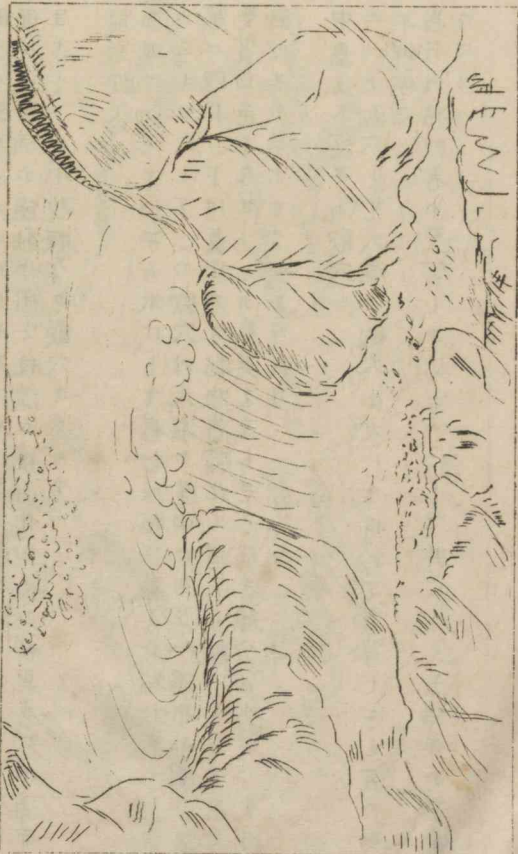
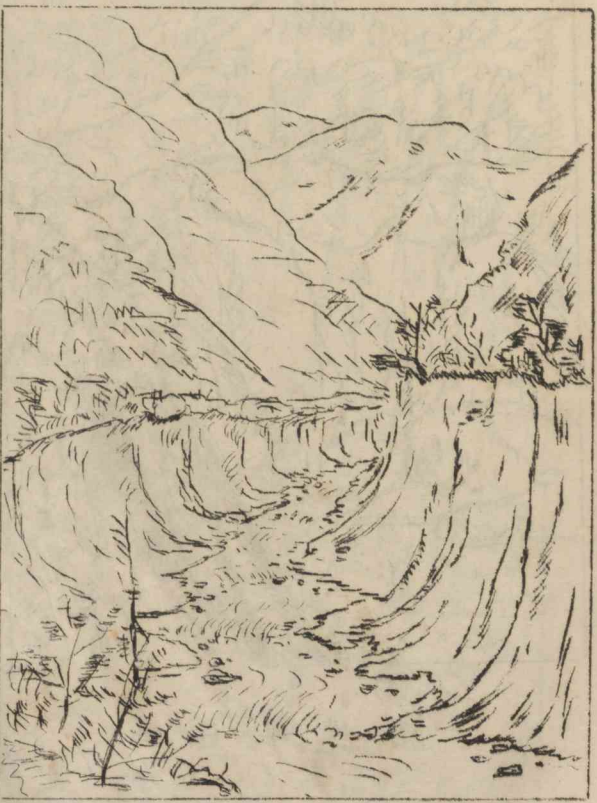
大瀧の歐穴

口、歐穴  
本村には歐穴所に発達し居れど述べらるべきものは非常に少なし  
左に圖示するものはそのうち主なるものなり



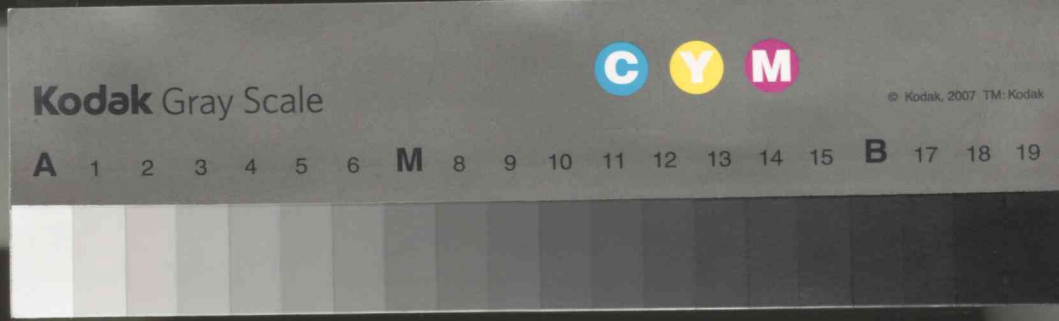


河原小屋峡谷



川中島の駅



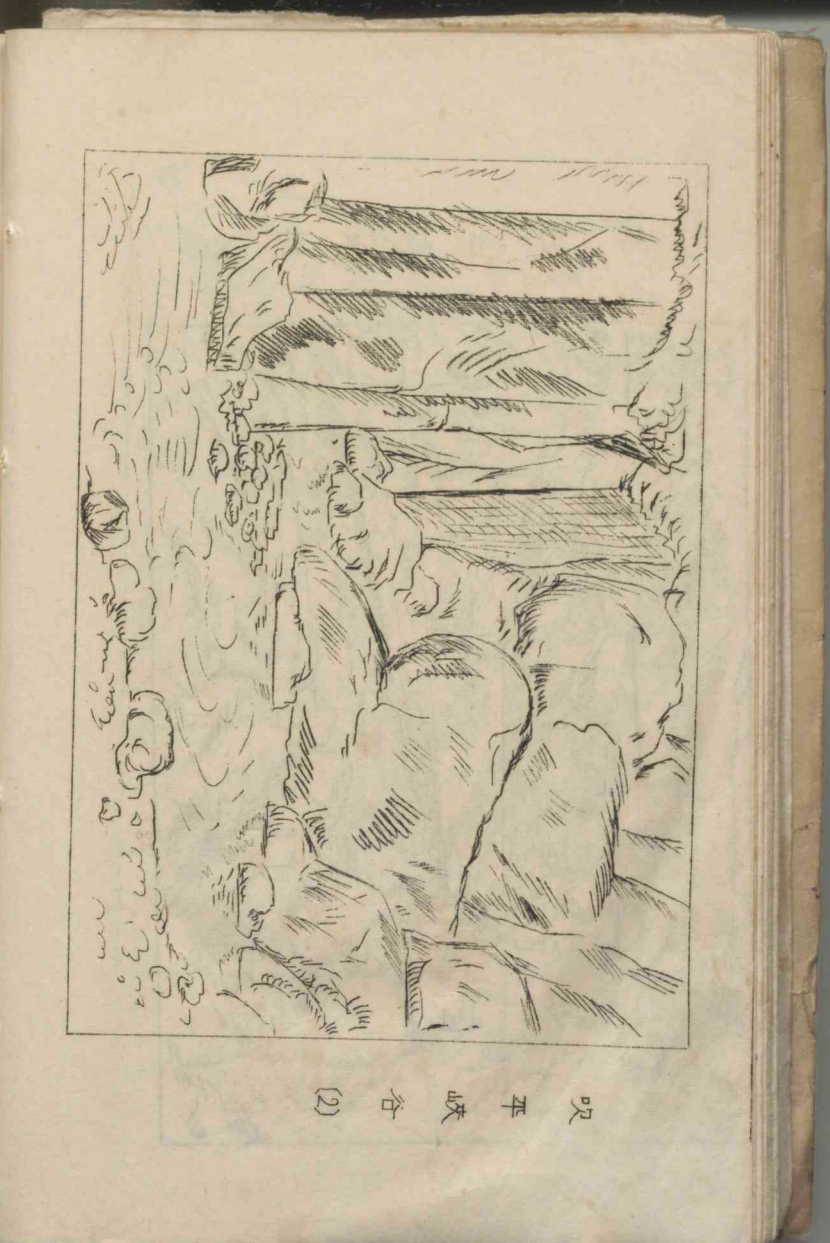
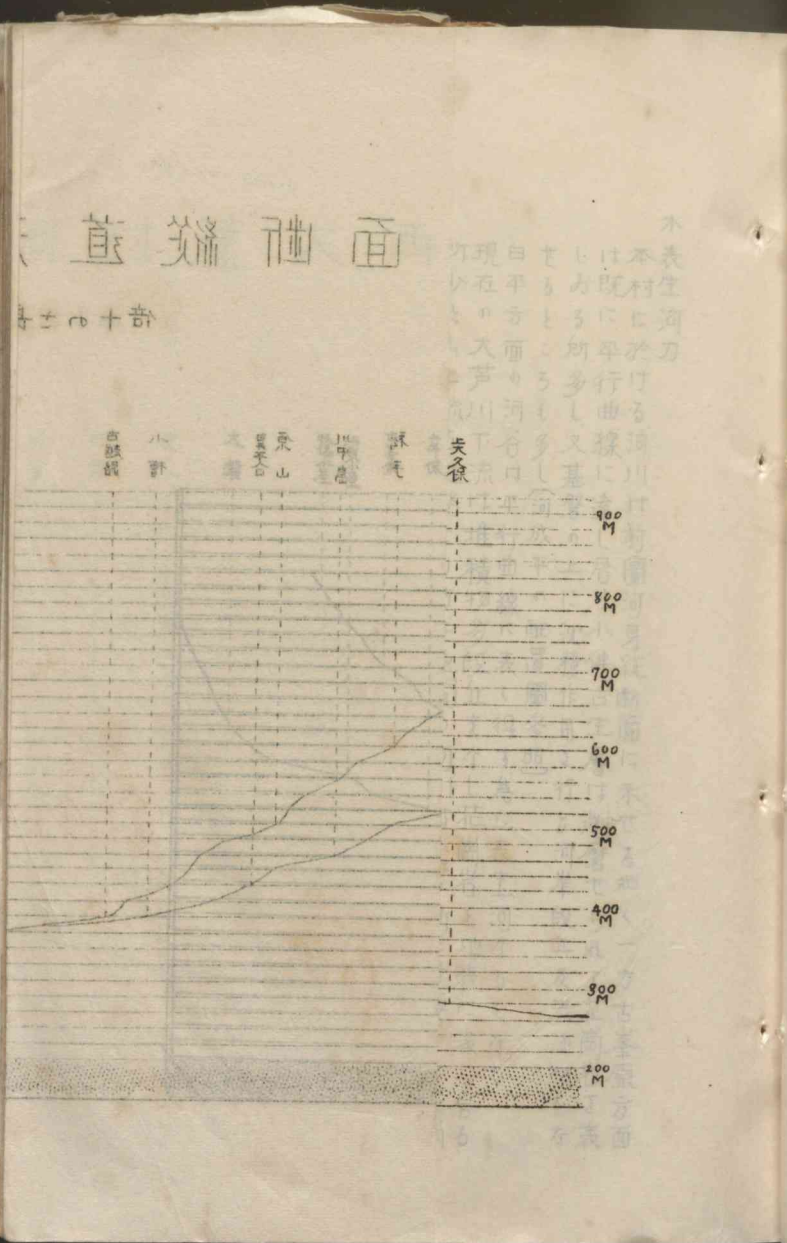
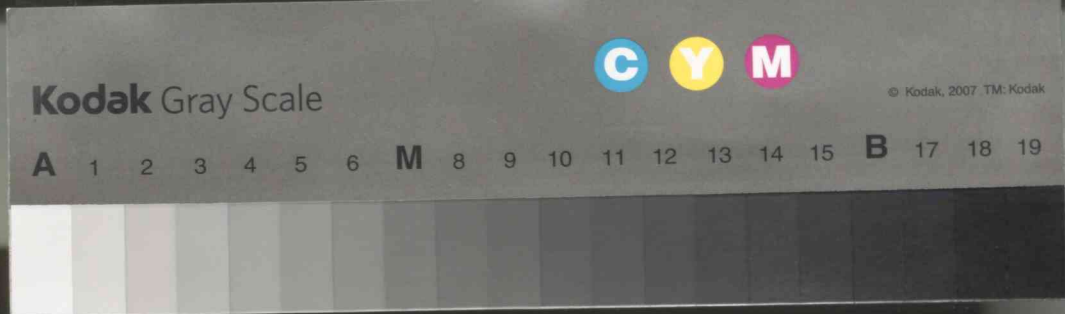


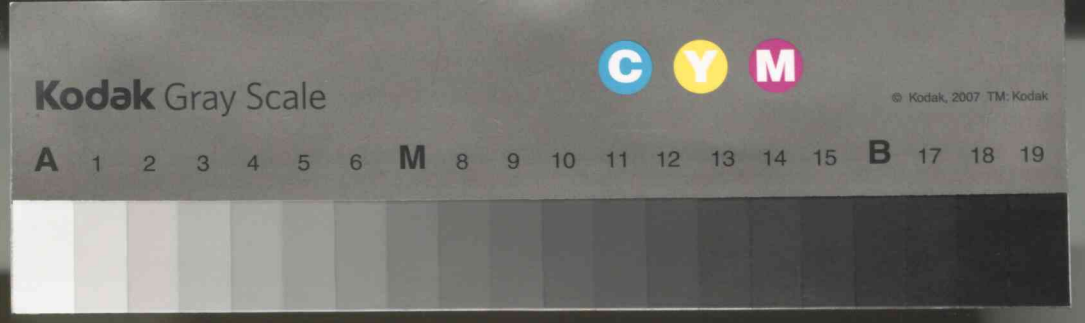
(1) 谷 峽 平 落



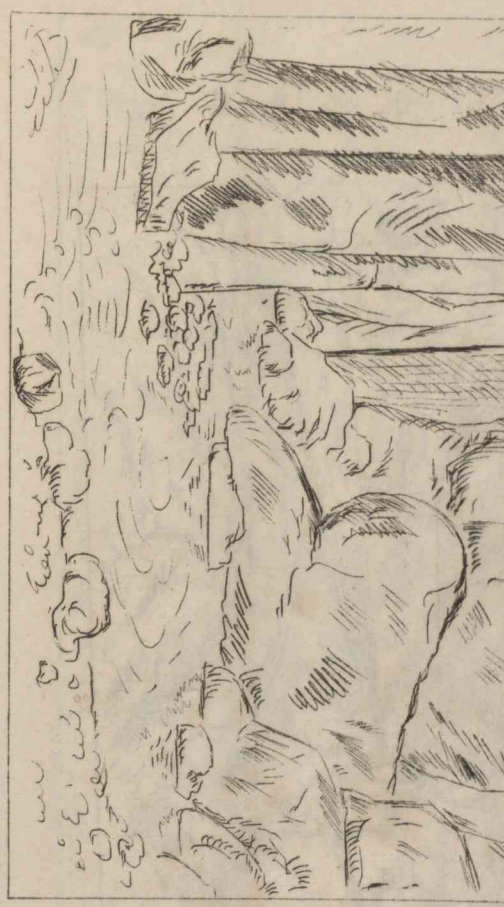
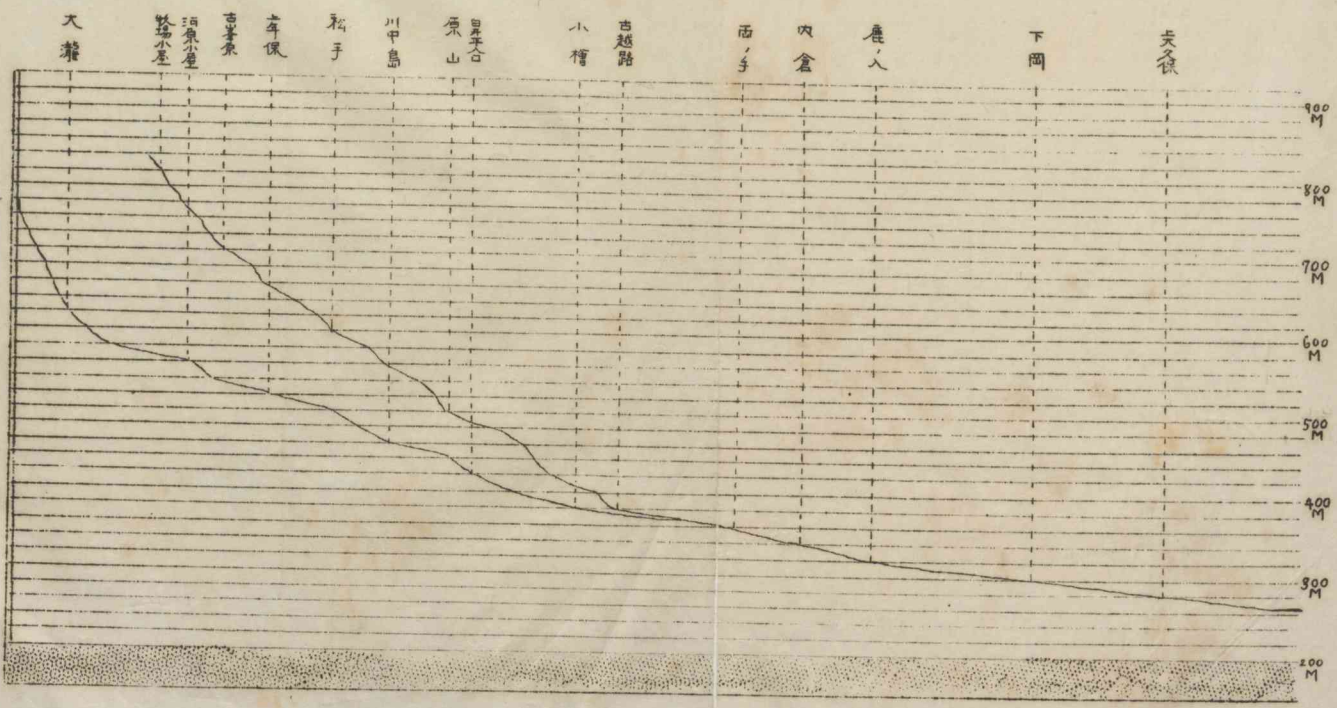
谷 峽 平 井 白





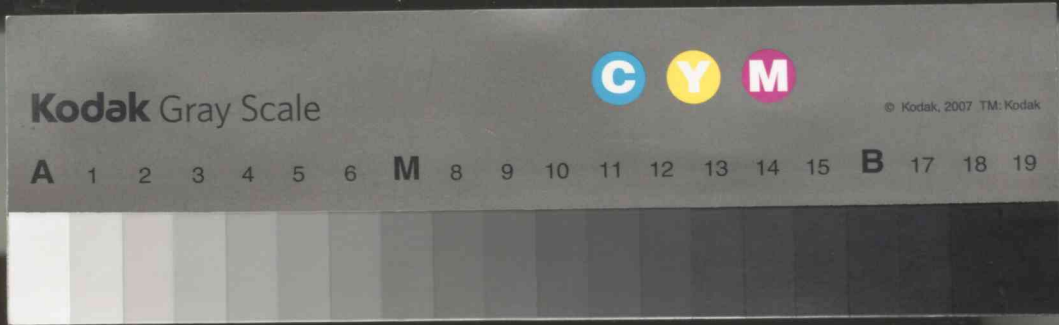


西大芦村河道縦断面  
 高さは十の倍



平峽谷 (2)





本表生河力  
 本村に於ける瀑布は、大なるものなく、又其の原因形式も同一なるもの多し。  
 多くは瀑布の原因となるものは、支流と本流の侵蝕の相異によりて出来たるものにして、小なるものは、白井平河原小屋踏平方面に於て、今左に其の主なるものを記すれば、  
 一 大瀬：河原小屋より三軒北、夕日三宿六郎地三つの山麓の會す所なり。  
 一 表生河力：本村に於ける瀑布は、大なるものなく、又其の原因形式も同一なるもの多し。  
 一 多し：多くは瀑布の原因となるものは、支流と本流の侵蝕の相異によりて出来たるものにして、小なるものは、白井平河原小屋踏平方面に於て、今左に其の主なるものを記すれば、  
 一 大瀬：河原小屋より三軒北、夕日三宿六郎地三つの山麓の會す所なり。

